

群馬大学医学部の収容定員変更の趣旨

1. 収容定員変更の内容

群馬大学医学部医学科の平成 20 年度以降の入学定員については、平成 21 年度に「経済財政改革の基本方針 2008」に基づき 5 名の恒久定員増を実施し、併せて「緊急医師確保対策」に基づき平成 29 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増を、また、平成 22 年度に「経済財政改革の基本方針 2009」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 7 名の臨時定員増を、さらに平成 23 年度に「新成長戦略」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 6 名の臨時定員増をそれぞれ実施した。その後、平成 31 年度を期限とする 18 名の入学定員について、令和 4 年度までの臨時定員増を再度実施した。

この度、令和 4 年度を期限とする 18 名の入学定員について、令和 5 年度までの期限を付した入学定員増を行い、令和 5 年度の入学定員について、定員増を行わなかった場合の 90 名から 108 名に変更する。

これにあわせて、収容定員についても令和 5 年度までの期限を付した臨時の入学定員増を踏まえ、再度の定員増を行わなかった場合の 615 名から 633 名に変更する。

2. 収容定員変更の必要性

本学では、かねてより地域医療を担う医師の減少に対し、医師の地域定着を促進するための地域保健・医療実践プログラムや教育課程を導入・実践してこの問題に取り組んできた。

しかし、群馬県内の 10 万人対医師数は、依然として全国平均を下回っている状況であり、将来時点(2036 年)における不足医師数の推計では不足養成数 78 というデータがある。実際、群馬県における医師不足、偏在に起因した住民の健康・福祉面での弊害が顕在化している状況がある。また、特定の診療科(産科、小児科、麻酔科、救急科、外科、整形外科)においても医師不足が顕著であるため、地域医療を担う医師の確保は、現在も喫緊の課題となっている。

本学では、引き続き入学定員を増員し、県内唯一の医学部として、より多くの地域医療を担う医師の養成を目指す予定としており、医師需要分科会の審議結果や群馬県の意向を注視している。

3. 収容定員変更に伴う教育課程等の変更内容

(1) 教育課程の変更内容

本学では、卒業時に目指す学生の姿として「SES について生涯自己研鑽を続けることができる学生」を掲げており、SES は Science, Ethics, Skill の頭文字で、それぞれ「科学的知、倫理、技能」を表している。SES の理念のもとに、卒業時に身につけておくべき医師としての重要な力として、①自己省察力、②知識の獲得と知識を応用する力、③コミュニケーション能力、④チーム医療の中で協働する力、⑤基本的な総合診察能力、⑥地域医療の向上に貢献する力、⑦医学研究を遂行する能力、⑧自己研鑽の 8 つを設定し、アウトカム基盤型の医学教育を推進している。また、平成 28 年度に改訂された「医学教育モデル・コア・カリキュラム(モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会及びモデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会とりまとめ)」に基づく体系的な医学教育課程を編成している。

地域医療を担う医療人を育成するための教育課程については既に実施しており、特に臨床実習においては、チーム医療実習、チームワークトレーニングのほか、国際的な評価基準に基づく医学教育分野別評価に対応するため診療参加型臨床実習を取り入れている。現行のカリキュラムで充分に対応可能であるのに加え、ポストコロナ時代の医療人材養成拠点の連携校として令和5年度から2科目を新設し、地域医療教育のさらなる充実を図る予定である。

（２）教育方法及び履修指導方法の内容

①地域医療教育

地域医療を担う医療人を養成するためには、入学後早期より地域医療の現場を体験し、将来地域医療を実践するための関心と意欲を高めることが効果的である。また、地域医療では特に重要となるチーム医療への理解と関心を深めるための実践的・体験的学習が必要となる。そのため本学では、群馬県地域での医療・介護・地域包括ケア等の実態を体験・理解するため「チーム医療実習」、「公衆衛生学」、「地域保健医療論」を行うほか、実習前講義において、群馬県、地域医療関係者を講師に招き、政策や直面する課題等について学修している。

また、地域保健、予防医学、医療過疎地診療などのテーマについて調査研究している。

そのほか正課外では、地域医療卒学生・医師に対するキャリア相談・フォローアップを行い、「地域医療体験セミナー」、「数日型地域医療体験セミナー」、「臨床研修病院等見学バスツアー」、「卒業生を含めた地域医療卒学生、群馬県職員及び大学教員の交流会」を開催している。

（医系の人間学）

医学科1～3年次において実施している。附属病院の各部署を少人数グループで巡回し、医療現場を体験し患者さんや医療スタッフ等病院で働く人の話を聞くことにより、以降の学内外の実習に対する積極的な姿勢を身につける。また、講義の中でコミュニケーション能力の向上や医療安全の考え方を身につける内容を取り入れて、医師を目指すための基本的な考え方や地域医療を安全に提供する考え方を学ぶ。

（チーム医療実習・チームワーク実習）

2年次8～9月に実施している。介護老人保健施設、介護老人福祉施設等の協力により、4、5名程度のグループ実習を2週間毎日実施し、利用者の介護等を通してコミュニケーション能力の向上を図っている。また医療・介護現場での各職種の協力体制、さらには群馬県地域での医療・介護の実態、地域包括ケアシステムを体験、理解させ、以降の学修に役立てている。

さらに、保健学科学生（看護、臨床検査、理学療法、作業療法）と高崎健康福祉大学薬学部生を加えて医学生がチームワークトレーニング（4年次）に参加することにより、多職種にわたる医療職種間のチームワークの必要性を理解させることが可能となった。

早期に地域の医療施設や保健施設で実習を行うことは、多角的な視野から非常に有用であり、医療人としての気構えや奉仕の精神だけでなく、群馬県を中心とした地域の医療・介護の実態を肌で感じることで、将来の地域定着への意欲が養われる。協力施設の意見も取り入れながら、学生がより目的意識を明確にして取り組めるよう、継続的に実習内容の見直しを行っている。

（公衆衛生学）

3年次に実施している。公衆衛生についての講義と併せて地域の保健関連施設見学を行うことにより、地域医療に関する認識を深め、さらに地域医療に関わる医師の役割を認識し興味を持てるよう配慮している。

(地域保健医療論)

地域医療への関心と意欲を深めるための教育として、4～6年次に2週間（うち1週間は計画書作成およびチューターとの面談）個人で地域保健、予防医学、医療過疎地診療などのテーマについて学外施設にて調査研究する。実習先は各地域の保健所、へき地診療所等の中から、個人が自主的に選定する。これにより、主に群馬県を中心とする地域の医療、福祉の実態を身を以て体験させ、地域保健・医療への意欲を高めるために有効である。さらに選択肢を増やすことにより、学生の多様な希望に対応すべく、様々なプログラムを用意している。

(臨床実習)

診療参加型臨床実習として、4年次1月～5年次11月に附属病院の臨床各科、各部署を3～4名のグループで1週間～6週間単位で巡回する必修実習と、5年次11月～6年次8月にかけて、群馬県下を中心とした病院・診療所（へき地診療所を含む）において、希望の診療科を選択して原則4週間単位で最低24週間、うち学外施設での実習を8週間以上行う選択実習を実施している。

選択実習における学外実習は、実体験を通じて地域医療の現場に十分に接することができ、卒業後群馬県内での臨床研修を選択し、地域に定着することが期待される。

②地域貢献

(地域医療研究・教育センター)

地域医療従事者のスキルアップ、生涯教育の実施は医療の質を確保するために重要であるとともに、それを適切な形で支援することは、医師の群馬県地域への定着につながる。平成20年度から従来の臨床研修センターを拡大改組し、医師以外の職種も視野に入れた「医療人能力開発センター」を設置、平成30年度には、県内医師配置の適正化等を目的とした**地域医療研究・教育センターに統合**した。ここで医師をはじめとする地域医療従事者のキャリア形成を支援し、卒前・卒後の学習、研修目標を明確にし、将来の地域医療実践に向けての方向性を確立させている。地域医療卒学生を対象として新型コロナ感染拡大の中で、地域医療卒卒業生、在学生（上級生から下級生まで）でWebグループ面談の開催を開始し、地域での医療や将来卒後の医師像を考える機会を設けている。

③卒後臨床研修

卒後2年間の初期臨床研修プログラムでは、群馬県、埼玉県及び栃木県の地域中核病院の協力により、本学医学部附属病院と地域中核病院においてそれぞれ1年間研修するコース（A又はBコース）と本学医学部附属病院で2年間研修するコース（Cコース）を設定している。また、原則研修2年目の必修科目として、外科、小児科、産科婦人科、精神科神経科、地域保健・医療を各1ヶ月設定し、さらに、基本研修科目の他に選択研修期間を8ヶ月とするなど、医師の地域定着並びに遍在の問題を意識したプログラムの構成が特徴となっている。

初期臨床研修修了後の進路として、シニアレジデント制度（後期専門研修プログラム）を

導入しており、本学附属病院と充実した地域中核病院で研修を行うことによって、専門医取得に必要な多くの症例・手技を経験させ、医師の地域定着につなげている。

(3) 教員組織

大学院重点化に伴って診療体制もさらに強化するため、特に臨床現場で重要となる准教授・講師に「(院内) 臨床教授」の称号を付与し、診療・臨床教育に意欲的に参加させている。

また、医学系研究科医学教育開発学講座(旧医学教育センター)と医学部附属病院地域医療研究・教育センターが「医学教育、医師の卒後教育を一貫して行う」という理念のもと、学生教育・卒後教育及び研修業務を行っている。卒前教育に係る部分は、医学教育開発学が担当し、卒後の臨床研修ならびに専門研修については地域医療研究・教育センターの臨床研修部門が担当している。臨床研修や新専門医制度に対応した専門研修修了後の医師の生涯教育についても、地域医療研究・教育センターの臨床研修部門が担当しており、両部署共に本学の医学教育において重要な位置づけとなっている。

令和 5 年度
医学部入学定員増員計画

群大企評 1 第 2 1 号
令和 4 年 8 月 2 2 日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人群馬大学長
石 崎 泰 樹
(公印省略)

「地域の医師確保等の観点からの令和 5 年度医学部入学定員の増加について（令和 4 年 8 月 10 日付け文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	総務部企画評価課企画係長・樋口 康弘
	TEL	027-220-7015
	FAX	027-220-7030
	E-mail	kk-akikaku1@jimu.gunma-u.ac.jp

大学名	国公立
群馬大学	国立

1. 現在(令和4年度)の入学定員(編入学定員)及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
108	15	0	723

↑
(収容定員計算用)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	計
(ア)入学定員	108	108	108	108	108	108	648
(イ)2年次編入学定員	15	15	15	15	15	0	75
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	123	123	123	123	123	108	723

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和5年度の入学定員(編入学定員)及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
90	15	0	615

↑
(収容定員計算用)

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	計
(ア)入学定員	90	90	90	90	90	90	540
(イ)2年次編入学定員	15	15	15	15	15	0	75
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	105	105	105	105	105	90	615
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和5年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
108	15	0	633

↑
(収容定員計算用)

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	計
(ア)入学定員	108	90	90	90	90	90	558
(イ)2年次編入学定員	15	15	15	15	15	0	75
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	123	105	105	105	105	90	633
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数 18

↑
(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増(地域枠)	18
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増(研究医枠)	0
計	18

1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数 18

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	群馬県	18
大学所在地以外の都道府県		
計		18

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R3地域枠定員 (※1)	R3貸与者数 (※2)	R4地域枠定員 (※1)	R4貸与者数 (※2)	R3とR4の貸与 者数のうち多い 方の数
群馬県	18	18	18	18	18
					0
					0
					0
					0
					0
計	18	18	18	18	18

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和5年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

①令和3年度に実施した地域枠学生(令和4年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	開始年度	備考
				うち臨時定員分				
一般選抜	(iii)一般選抜地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	6	6	大学入学共通テスト、個別学力検査等、調査書及び志願理由書(地域医療枠で出願する者のみ)を総合して判定	次のいずれかに該当するもの (1)群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校の卒業生若しくは卒業見込みの者 (2)群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育又は専修学校の高等課程の修了者若しくは修了見込みの者 (3)学校教育法第90条第2項の規定により群馬大学以外に入学した大学の所在地が群馬県にある者 (4)(3)以外の者で群馬県に所在する大学又は大学院の在学者、卒業(修了)者若しくは卒業(修了)見込みの者 (5)上記(1)から(4)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの ①出願時の住所が群馬県内にある者 ②出願時に父母、祖父母又は配偶者のうち、いずれかの者の住所が群馬県内にある者 ③出願時の本籍が群馬県内にある者	H22	
学校推薦型選抜	(i)学校推薦型選抜	別枠(区別型)	12	12	大学入学共通テスト、面接・小論文及び出願書類(調査書、推薦書、適性資質調査書、志願理由書(地域医療枠で出願する者のみ))を総合して判定	次のいずれかに該当するもの (1)群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者 (2)群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育を修了見込みの者 (3)上記(1)及び(2)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの ①出願時の住所が群馬県内にある者 ②出願時に父母、祖父母又は配偶者のうち、いずれかの者の住所が群馬県内にある者 ③出願時の本籍が群馬県内にある者	H21以前	
合計			18	18				

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②令和4年度に実施する地域枠学生(令和5年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。

また、参考としてPRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	開始年度	備考
				うち臨時定員分				
一般選抜	(iii)一般選抜地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	6	6	大学入学共通テスト、個別学力検査等、調査書及び志願理由書(地域医療枠で出願する者のみ)を総合して判定	次のいずれかに該当するもの (1)群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校の卒業生若しくは卒業見込みの者 (2)群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育又は専修学校の高等課程の修了者若しくは修了見込みの者 (3)学校教育法第90条第2項の規定により群馬大学以外に入学した大学の所在地が群馬県にある者 (4)(3)以外の者で群馬県に所在する大学又は大学院の在学者、卒業(修了)者若しくは卒業(修了)見込みの者 (5)上記(1)から(4)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの ①出願時の住所が群馬県内にある者 ②出願時に父母、祖父母又は配偶者のうち、いずれかの者の住所が群馬県内にある者 ③出願時の本籍が群馬県内にある者	H22	
学校推薦型選抜	(i)学校推薦型選抜	別枠(区別型)	12	12	大学入学共通テスト、面接・小論文及び出願書類(調査書、推薦書、適性資質調査書、志願理由書(地域医療枠で出願する者のみ))を総合して判定	次のいずれかに該当するもの (1)群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者 (2)群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育を修了見込みの者 (3)上記(1)及び(2)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの ①出願時の住所が群馬県内にある者 ②出願時に父母、祖父母又は配偶者のうち、いずれかの者の住所が群馬県内にある者 ③出願時の本籍が群馬県内にある者	H21以前	
合計			18	18				

(※1) 貴大学において、PRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)に記載の内容(貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容)をご記入ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要(令和5年度)について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

1年次に「医系の人間学1A, 1B」、2年次に「医系の人間学2A, 2B」「チーム医療実習」、3年次に「医系の人間学3A, 3B, 3C」を開講し、地域で暮らす人の気持ちやエンドオブライフまで人の一生の中での本人と家族の気持ちの変化と地域で暮らす人が望むことを、附属病院や県内の医療施設において地域医療連携や包括ケアについて、臨地実習にて幅広く学んでいる。3年次に「公衆衛生学」を開講し、公衆衛生の意義を学んでいる。4年次には保健学科学生と合同で実施する「チームワークトレーニング」で多職種連携について学んでいる。
また、臨床実習では、診療参加型実習の拡充を図り、人口対医師数が少ない県外以外の地域にある病院・診療所(へき地診療所を含む)での実習を4週間以上行うなど、地域の特性に応じた医療について学ぶ機会を提供している。6年次には「地域保健医療論」を開講し実習を通して公衆衛生の意義を深く学んでいる。

(参考:記入例)

1～2年次には、「〇〇」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和4年度からは、■■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②(過去に地域枠を設定したことがある場合)これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

平成21年度から地域医療枠による増員を開始し、群馬県地域医療支援センターと連携し、地域医療について学ぶためのセミナーやフォーラム、情報交換会などの取組を行っている。令和4年度までに228名の地域医療枠学生が入学し、そのうち115名が地域医療に貢献している。

(参考:記入例)

平成〇年度から地域枠による増員を開始し、□□、■■などの取組を行ってきた。令和4年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容(正規科目)について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修／選択の別		講義／実習の 別	単位数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1年・2年編入	医系の人間学1A	全員	必修	必修	講義／実習	3	R2
1年	医系の人間学1B	全員	必修	必修	講義／実習	3	R2
2年	医系の人間学2A	全員	必修	必修	講義／実習	3	R3
2年	医系の人間学2B	全員	必修	必修	講義／実習	3	R3
2年	チーム医療実習	全員	必修	必修	実習	2	H21以前
3年	公衆衛生学	全員	必修	必修	実習	2	H21以前
3年	医系の人間学3A	全員	必修	必修	講義／実習	2	R4
3年	医系の人間学3B	全員	必修	必修	講義／実習	1	R4
3年	医系の人間学3C	全員	必修	必修	講義／実習	1	R4
4年	チームワークトレーニング	全員	選択必修	選択必修	実習	2	H28
6年	地域保健医療論	全員	必修	必修	実習	1	H24

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例:○週間)	プログラムの概要(1～2行程度)	開始年度

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。(令和4年度以前から継続する取組を含む)(1～2行程度)

取組の名称	取組の概要(1～2行程度)	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

2. 都道府県等との連携

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」(平成元年法律第64号)第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。
なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定 主体	貸与人数	貸与対象	貸与額（例：200,000）		返還免除要件	選抜方法		診療科の限定 の有無	（診療科の限定がある場合） その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の有無（※1）			
群馬県	18	新入生	100,000又は 150,000	7,482,000又は 11,082,000	次の①～③の要件すべてを満たした場合 ①卒業後、貸与を受けた期間の3分の5に相当する期間(従事必要期間)、県内の特定病院で臨床研修及び診療業務に従事すること。 ②4年間以上は、将来勤務することとなる時点の保健医療計画に明記される「医師不足地域」の特定病院又は「特に不足する診療科」のうちから、被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する医療機関又は診療科に勤務すること（へき地医療拠点病院又はへき地診療所に勤務する場合は3年間以上）。 ③従事必要期間は、群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」に参加すること	④その他（備考欄に記入）	○	×		●貸与額について 貸与額は、本人及び生計を一にする者の所得の合計が1,500万円以上の場合10万円/月、1,500万円未満の場合15万円/月 ●選抜方法 地域枠の入学者に対し、返還免除要件等を説明し、意思確認を行う面談を実施。

(※1)○の場合は、備考欄に詳細をご記入ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。（例：在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要(1～2行程度)	開始年度
5、6年生に対する個別面談	地域医療支援センター専任医師と県職員が協同で、地域医療に関する情報提供も含めた個別面談を実施	H26
各種セミナー等の開催	県内病院の見学や、先輩医師の体験談を聞く座談会等の実施	H25
卒後医師に対する個別面談	卒後のキャリア形成を支援するため、地域医療支援センター専任医師と県職員が協同して隔年で個別面談を実施	H28

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

3. その他

1～2に記入したもの以外で、その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。(1～3行程度)
特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

群馬県地域医療支援センターと連携して、地域医療枠受験を希望する者向けに特設サイトやパンフレット、動画を作成し、配信をしている。また、昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止した高校生向けの職場(病院)体験セミナーを再開し、今年度は新たにへき地診療所も見学対象に加えた。

2. 研究医養成のための入学定員増について

増員希望人数

(1) 令和5年度研究医養成のための入学定員増について

大学が講ずる措置

※令和4年度までの取組を継続して行う場合には、必要に応じて見直しを行ったうえで、当該取組も記載すること。

1. コンソーシアムの形成

① 以下をご記入ください。複数のコンソーシアムを形成している場合には、コンソーシアムごとにご記入ください。

	連携大学	取組の概要(1～3行程度)	(連携先大学が研究医枠による増員を行っている場合) 連携大学との役割分担(※1)	開始年度
No.1				
No.2				
No.3				

(※1) 過去に研究医枠により入学定員増を実施したことがない大学のみご記入ください。過去に研究医枠による増員を行った大学については、当該欄は記入不要です。

2. 特別コース(※)の設定

(※)「特別コース」とは、学部・大学院教育を一貫して見通した研究医養成のための重点的プログラムを指します。

①特別コースの概要について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。その際、平成22年度～令和4年度に実施した取組で継続して行うもののほか、令和5年度に新たに行おうとする取組についてもご記入ください。

(選抜の時期、授業内容、特別コースに入ることにより大学院進学が促進される仕組み(MD-PhD、単位の先行履修、論文認定、キャリア支援の取組など)

(参考:記入例)
MD-PhDコースや▲年次での大学院進学を促すとともに、○年次に選抜を行い、「○○」という科目等を開講して～～を学んでいる。学部・大学院での一貫した研究を促すため、△△、□□を行っている。またキャリア支援として、～～を実施している。令和4年度からは、■■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②研究医養成のための一貫した特別コースについて、以下をご記入ください。併せて、概要がわかる資料をご提出ください。

選抜の時期 (※1)		コースの名称	年次	募集定員 (※2)	大学院への進学時期 (※3)	開始年度	備考
	選抜入試						
	特定の学年次に希望者を募集						
	その他(備考欄に詳細を記入)						

(※1)複数段階に分けて選抜を行っている場合には、該当する全てに○をご記入ください。

(※2)最低人数を定めている場合には、「○名以上」という形でご記入ください。

(※3)特別コースの学生の大学院進学時期について全てご記載ください。(例:5年次(MD-PhD)／卒後直後に進学／卒後、臨床研修後に進学／卒後、臨床研修と並行して進学)

③研究医養成のための選抜入試について、以下をご記入ください。

研究医養成のために特別な入試を実施しているか。

(「○」を選択した場合)以下をご記入するとともに、募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	募集人数		選抜方法(※1)	開始年度	備考
			うち臨時定員分			
合計		0	0			

(※1)貴大学において、PRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)に記載の内容(貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容)をご記入ください。

※複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

④研究医養成のための教育内容(正規科目)について、以下をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修／選択の別		講義／実 習の別	単位数	開始年度
			研究医コース 学生	その他の 学生			

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「研究医コース学生」「全員」のうちから選択ください。(研究医コース学生の希望者のみの場合は、対象者を「研究医コース学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。)

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑤大学の正規科目以外で、研究医養成プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	期間 (例:○週間)	プログラムの概要(1～2行程度)	開始年度

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「研究医コース学生」「全員」のうちから選択ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑥特別コースに関する取組のうち、以下の項目に関連するものについてご記入ください。なお、必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

(項目: 専用の入試枠の設定による選抜の実施、学生が研究活動を実施するために必要となる研究費の予算措置、学生の学会発表、論文発表の機会の設定及び指導体制の構築、臨床研修により研究活動が中断されることのないようにするための配慮、研究医となった際の常勤ポストの確保、海外での研修の機会(1か月以上))

(項目)	概要(1～2行程度)	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑦上記②～⑥以外に、研究医養成の特別コースに関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。
(令和4年度以前から継続する取組を含む)(1～2行程度)

取組の名称	取組の概要(1～2行程度)	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑧特別コースの履修者の確保状況について、以下をご記入ください。

	R2	R3	R4	直近3年間の平均
人数(名)				#DIV/0!

※当該年度の新規履修者のみを計上してください。

3. 奨学金の設定

①卒業後一定期間の研究医としての従事を要件とする奨学金の設定について、以下をご記入ください。
複数の奨学金を設定している場合には、それぞれについてご記入ください。

	名称	設定主体 (例:大学、 〇〇財団)	給付／貸与 の別	支給対象	募集人数	選抜の有無	支給期間 (例:大学院1～3年次(3年 間))
No.1							
No.2							
No.3							

(続き)

	支給額 (例:200,000)		返還免除要件	開始年度	備考
	月額	総支給額			
No.1					
No.2					
No.3					

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

(2) 研究医養成拠点として相応しい実績

①－1. 継続的に大学院生を輩出してきた客観的な実績について、以下をご記入ください。

(入学年度)	R2	R3	R4	直近3年間の平均
基礎・社会系大学院進学者数〔A〕				#DIV/0!
臨床系大学院進学者数〔B〕				#DIV/0!

(博士課程修了年度)	R1	R2	R3	直近3年間の平均
〔A〕の修了者数〔C〕				#DIV/0!
〔B〕のうち、基礎・社会学系の論文(又は共著論文)を執筆した修了者数〔D〕				#DIV/0!
合計	0	0	0	0

①－2. その他、継続的に大学院生を輩出してきた客観的な実績があれば、簡潔にご記入ください。(1～3行程度)

②－1. 継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績について、以下をご記入ください。

(博士課程修了年度)	R1	R2	R3	直近3年間の平均
〔C〕〔D〕のうち、基礎・社会学研究分野の就職者数				#DIV/0!
〔C〕〔D〕のうち、臨床系に就職したが基礎・社会学研究に従事する者等の数(※1)				#DIV/0!
合計	0	0	0	0

(※1) 一度臨床系(基礎系以外)に進んだものの実態としては研究に従事している又は従事する見込みがある者の数。

(例: 臨床医として働きながら研究活動を行っている者、常勤ポストではないが大学の身分を有し研究活動を行っている者、現在臨床医として勤務しているが将来的に研究に従事する意思を大学が確認している者)

②－2. その他、継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績があれば、簡潔にご記入ください。(1～3行程度)

③大学教育改革の支援に関する補助事業の採択実績等
※必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

採択事業名	採択年度 (○年度～ ○年度)	概要(1～3行程度)

④他大学と比較した際に研究医養成拠点として相応しいと考えられる客観的な実績(科学研究費採択率等)
※必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

概要(1～3行程度)

(3)過去に研究医枠による入学定員増を実施した場合の令和4年度における状況

①過去に入学定員増を実施した際に計画していた研究医養成に関する取組について、
その有効性が高いことを確認している旨を、確認方法等とともにご記入ください。
(例:第三者による評価、学内委員会による評価)

--

大学別医学部入学定員一覧

大 学 名	属性 (国公私)	R4年度定員	本増員計画による 入学定員増を行わ ない場合の令和5 年度の入学定員	R5年度 増員数	R5年度 定員 (計画)
群馬大学	国立	108	90	18	108

大学名	令和4年度 定員	本増員計画による 入学定員増を行わ ない場合の令和5 年度の入学定員	令和5年度増員計画				令和5年度 定員 (計画)	令和5年度増員計画
								教育内容の概要
群馬大学	108	90	地域枠	18	都道府県ごとの内訳		108	1年次に「医系の人間学1A、1B」、2年次に「医系の人間学2A、2B」「チーム医療実習」、3年次に「医系の人間学3A、3B、3C」を開講し、地域で暮らす人の気持ちやエンドオブライフまで人の一生の中での本人と家族の気持ちの変化と地域で暮らす人が望むことを、附属病院や県内の医療施設において地域医療連携や包括ケアについて、臨地実習にて幅広く学んでいる。3年次に「公衆衛生学」を開講し、公衆衛生の意義を学
					群馬県	18		
					0	0		
					0	0		
					0	0		
					0	0		
			研究医枠	0			0	



一般選抜 2022年度(令和4年度) 学生募集要項

新型コロナウイルス感染症の状況により、選抜方法等が変更となる可能性がありますので、本学ホームページで最新情報を確認してください。

群馬大学医学部医学科の入学定員について（確定）

認可申請中であった医学部臨時定員増は、令和３年１０月２７日付けで文部科学省より認可されました。

よって、令和４（２０２２）年度の入学定員は下表のとおりとなりましたのでお知らせします。

表

入学定員	募集人員			
	学校推薦型選抜		一般選抜前期日程	
108	一般枠	地域医療枠	一般枠	地域医療枠
	25	12	65	6

◎一般選抜

I 共通事項

1. 入学定員（募集人員）

学部	学科・課程・専攻・類			〔出願区分〕	入学定員	募 集 人 員						
						特 別 選 抜					一般選抜	
						総 合 型	学校推薦型	帰国生	社会人	私費外国人留学生	前期日程	後期日程
共同教育学部	学校教育教員養成課程	人文社会系	国語専攻	190	—	5	—	—	若干名	14	2	
			社会専攻		—	4	若干名	—	若干名	15	3	
			英語専攻		—	—	—	若干名	12	3		
		自然科学系	数学専攻		—	8	若干名	—	若干名	11	2	
			理科専攻		—	3	若干名	—	若干名	16	3	
			技術専攻		—	1	—	—	若干名	6	2	
		芸術・生活・健康系	音楽専攻		—	4	—	—	若干名	9	—	
			美術専攻		—	2	若干名	—	若干名	7	3	
			家政専攻		—	—	—	若干名	9	3		
		教育人間科学系	保健体育専攻		—	3	—	—	若干名	11	3	
			教育専攻		—	2	—	—	若干名	3	—	
			教育心理専攻		—	2	—	—	若干名	3	—	
			特別支援教育専攻		—	5	若干名	—	若干名	8	3	
	計				190	—	39	若干名	—	若干名	124	27
情報学部	情報学	科	170	—	50 ^{注4}	若干名	若干名	若干名	96	24 ^{注5}		
		計	170	—	50	若干名	若干名	若干名	96	24		
医学部	医学科	〔一般枠〕		90	—	25	若干名	—	若干名	65	—	
		〔地域医療枠〕		18	—	12 ^{注6}	—	—	—	6 ^{注6}	—	
		小計		108	—	37 ^{注6}	若干名	—	若干名	71 ^{注6}	—	
	保健学科	看護学専攻		80	—	30	若干名	若干名	若干名	33	17	
		検査技術科学専攻		40	—	9	若干名	若干名	若干名	22	9	
		理学療法専攻		20	—	8	若干名	若干名	若干名	8	4	
		作業療法専攻		20	—	8	若干名	若干名	若干名	8	4	
		小計		160	—	55	若干名	若干名	若干名	71	34	
計				268	—	92	若干名	若干名	若干名	142	34	
理工学部	物質・環境類		285	5	90 ^{注7}	若干名	—	若干名	162	28		
	電子・機械類		185	7	55 ^{注7}	若干名	—	若干名	105	18		
	計		470	12	145	若干名	—	若干名	267	46		
合 計				1,098	12	326	若干名	若干名	若干名	629	131	

- 注1 総合型選抜の入学手続者が募集人員に満たない場合は、原則として、学校推薦型選抜の募集人員に、この満たない人数を加えます。
 2 学校推薦型選抜の入学手続者が募集人員に満たない場合は、原則として、前期日程の募集人員に、この満たない人数を加えます。
 3 前期日程の募集人員には、帰国生選抜及び社会人選抜の募集人員若干名を含みます。
 4 情報学部情報学科の学校推薦型選抜の募集人員にはプログラム特別枠最大で20名(各プログラム最大5名)及びGFL特別枠若干名を含みます。
 5 情報学部情報学科の後期日程の募集人員24名は、概ね小論文重視型12名及び大学入学共通テスト重視型12名とします。
 6 医学部医学科の地域医療枠の募集人員については、医学部臨時定員増の認可申請中であり、申請が認められた場合の募集人員となります。
 7 理工学部各類の学校推薦型選抜の募集人員にはGFL特別枠若干名を含みます。

Ⅳ 医学部

1. 志望方法

日程	学科	出 願 区 分	志 望 方 法
前期日程	医 学 科	一般枠	左記出願区分から1つを選び志望してください。
		地域医療枠	
日程	学科	専 攻	志 望 方 法
前期日程 ・ 後期日程	保健学科	看護学専攻	第1志望のみとします。
		検査技術科学専攻	
		理学療法学専攻	理学療法学専攻及び作業療法学専攻を組み合わせ、第1、第2志望とすることができます。なお、第1志望のみとすることもできます。
		作業療法学専攻	

注1 入学後の転学科は認めていないので、志望選択に当たっては十分留意してください。

○ 医学科の出願区分について

合格者の判定はそれぞれの出願区分の基準により実施します。

①一般枠

医師や医学研究者等を目指す一般的な選抜枠で、群馬県からの修学資金貸与を希望しない場合の出願区分です。

②地域医療枠

群馬県での将来の医療を担うという強い意志を持ち、群馬県からの修学資金貸与を希望する場合の出願区分です。なお、入学後、地域医療枠を辞退することは、出願要件の趣旨に反することから、理由の如何を問わず認めません。

また、合格判定の結果、合格とならなかった場合、一般枠にて再度合格者の判定を行います。

- ・群馬県の修学資金貸与制度の概要は、下記の「群馬県緊急医師確保修学資金貸与制度について（一般選抜）」を参照してください。
- ・地域医療枠合格者は、群馬大学医学部や群馬県等が企画する県内医療に関する特別プログラムに参加します。
- ・地域医療枠合格者は、卒業後10年間は、群馬大学医学部附属病院を含む群馬県内の特定病院の中から選択し、臨床研修及び診療業務に当たります。医師としての柔軟なキャリア形成が可能です。後出のキャリアモデルを参考にしてください。

群馬県緊急医師確保修学資金貸与制度について（一般選抜）

1 対象者要件

「4. 出願資格等」（14 ページ）に示す出願資格に該当する者であって、次のいずれかに該当するもの

- (1)群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校の卒業生若しくは卒業見込みの者
- (2)群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育又は専修学校の高等課程の修了者若しくは修了見込みの者
- (3)学校教育法第90条第2項の規定により群馬大学以外に入学した大学の所在地が群馬県にある者
- (4)(3)以外の者で群馬県に所在する大学又は大学院の在学者、卒業（修了）者若しくは卒業（修了）見込みの者
- (5)上記(1)から(4)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの
 - ①出願時の住所が群馬県内にある者
 - ②出願時に父母、祖父母又は配偶者のうち、いずれかの者の住所が群馬県内にある者
 - ③出願時の本籍が群馬県内にある者

2 提出書類

「5. 出願手続」(7)提出が必要な出願書類等(26～28 ページ)に示す出願書類のほか、次の書類をあわせて提出すること。

なお、(1)～(4)の書類にあっては、上記1(1)、(2)又は(3)に該当する者は除きます。

- (1)〔1(4)に該当する者〕 在学証明書、卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書
- (2)〔1(5)①に該当する者〕 住民票の写し

(3)〔1(5)②に該当する者〕 父母、祖父母又は配偶者の住民票の写し及び出願者との関係がわかるもので次のいずれか一つ。

- ・住民票の写し（続柄が記載されているもの）
- ・出願者の出身高等学校等が発行する証明書（任意様式・学校長の証明印があるもの）
- ・健康保険証の写し（続柄が記載されているもの）
- ・市(区)役所、町村役場が発行するもので関係がわかるもの

(4)〔1(5)③に該当する者〕 市(区)役所、町村役場が発行するもので本籍が証明できるもの

※住民票の写しは、出願日前3ヶ月以内に発行されたもので、個人番号（マイナンバー）が記載されていないものとします。

(5)〔全員〕 所定の様式に本人及び保護者（又は法定代理人）が署名、押印した同意書

3 貸与期間

6年間

4 修学資金貸与額（予定）

原則月額10万円（ただし、本人及び生計を一にする者の所得額の合計が1,500万円未満の場合は15万円）

※「生計を一にする者」とは、主に、次に掲げる者

- ・修学資金の貸与を受けようとする者と同一世帯の父母
- ・修学資金の貸与を受けようとする者の所得税法(昭和40年法律第33号)第2条第1項第33号に規定する同一生計配偶者
- ・その他、これらに類する者と知事が認める者

※初年度は、入学科相当額が加算されて貸与されます。

5 貸与条件

(1)群馬県内の地域医療に貢献したいという強い意志を持ち、卒業後、県内の特定病院において、貸与期間の3分の5に相当する期間(10年間＝従事必要期間)、卒後臨床研修及び診療業務に従事すること。

(2)従事必要期間(10年間)のうち、臨床研修修了後の4年間以上は、群馬県保健医療計画に明記される医師不足地域の特定病院又は特に不足する診療科のうちから被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する特定病院又は診療科に勤務すること。ただし、へき地医療拠点病院又はへき地診療所に勤務する場合は3年間以上とする。

(3)従事必要期間(10年間)は、群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」に参加すること。

〔補足〕

- ・「医師不足地域」、「特に不足する診療科」は、将来、勤務することとなる時点の保健医療計画に明記されます。
 - ・貸与期間中に修学資金貸与を辞退することは、原則として認めません。
- また、留年した場合は、当該留年に係る期間は貸与を受けることができません。

6 返還

卒業後、県内の特定病院において、従事必要期間(10年間)、卒後臨床研修及び診療業務に従事した場合は、修学資金の返還が全額免除されます。

しかし、次のような場合は、貸与期間に年10%の割合で計算した利息を加算して、貸与した修学資金を返還することが必要です。

- ・貸与条件を満たさないこととなった場合
(ただし、特定病院における在職期間に応じて、返還が一部免除になります。)
- ・卒業の翌年までの医師国家試験に合格できなかった場合
- ・卒業後、県内の特定病院で臨床研修に従事しなかった場合

7 貸与手続

入試合格後、群馬県による意思確認の面接を経て、群馬県との間で貸与手続（貸与申請書の提出、貸与契約書の締結等）を行います。その際、連帯保証人2名が必要です。

※詳細は別途案内します。

なお、修学資金は、二月ごとにその期間分を貸与する予定です。

《制度の特色》

群馬県による本制度には下記のような特色がありますので、卒後臨床研修先の選定や、その後の診療業務、大学院進学、留学、研修等について、柔軟に計画することが可能となります。

①卒業後に従事する特定病院は、被貸与者が選択することができます。

ただし、「5. 貸与条件」(2)に示す特定病院又は診療科は被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する特定病院又は診療科になります。

②群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」により、卒業後10年間のキャリア形成を支援します。キャリアパスは、地域間・病院間ローテーションにより、キャリアアップと地域医療への貢献を实践できるものです。

③卒業後、従事必要期間は県内の特定病院での従事が必要となりますが、次のようなケースは返還義務中断期間として認められます。

i) 疾病・災害で業務に従事できなかった期間

ii) 産休・育児休業した期間

iii) 大学院（医学を履修する課程に限る）に在学した期間→5年まで可

iv) 外国の大学・大学院、医療機関、研究機関等において医学研修等に従事した期間→5年まで可

v) 特定病院で実施する専門研修のプログラムの一環として特定病院以外の病院に勤務した期間→3年まで可

vi) 県の医療水準向上に資する専門知識修得のため特定病院以外の病院に勤務した期間→3年まで可

《特定病院について》

「県内の特定病院」には、群馬大学医学部附属病院のほか、次の病院が予定されています。いずれも公的な側面が強い地域の中核的な病院です。これらの病院の医師不足解消も大きな目的の一つです。

群馬県立心臓血管センター、群馬県立がんセンター、群馬県立精神医療センター、群馬県立小児医療センター、前橋赤十字病院、公益財団法人老年病研究所附属病院、独立行政法人地域医療機能推進機構群馬中央病院、群馬県済生会前橋病院、前橋協立病院、独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター、医療法人社団日高会日高病院、公立碓氷病院、独立行政法人国立病院機構渋川医療センター、公立藤岡総合病院、藤岡市国民健康保険鬼石病院、下仁田厚生病院、公立富岡総合病院、公立七日市病院、吾妻広域町村圏振興整備組合立中之条病院、原町赤十字病院、西吾妻福祉病院、独立行政法人国立病院機構沼田病院、利根中央病院、伊勢崎市民病院、社団法人伊勢崎佐波医師会病院、桐生厚生総合病院、SUBARU健康保険組合太田記念病院、公立館林厚生病院

以上のほか、協力型臨床研修病院、へき地診療所、二次救急輪番病院。

《修学資金貸与制度に関する問合せ先》

群馬県庁 健康福祉部医務課 医師確保対策室 電話：027 - 226 - 2540（直通）

地域医療枠合格者の卒業後のキャリアモデル

- 1) 専門研修の間に、群馬大学大学院医学系研究科の社会人入試制度を利用して、返還義務期間を中断することなく、博士（医学）の学位を取得することもできる。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	臨床研修 群馬大学医学部 附属病院や県内 の臨床研修病院 での研修	専門研修 群馬大学医学部附属病院などの県内の特定病院に勤務し、専門医取得の研修などを行う。この期間中の4年間、群馬大学大学院医学系研究科に社会人入試で入学し、研究論文をまとめ博士（医学）の学位を取得することもできる。
10年間		

- 2) 大学院医学系研究科に入学し、先端研究に従事して博士（医学）の学位を取得する。
大学院在学中の期間を返還義務中断期間とする。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	臨床研修 群馬大学医学部 附属病院や県内 の臨床研修病院 での研修	大学院医学系研究科 博士課程一般入試で入学して先端研究に従事し、博士（医学）の学位を取得する。 [中断期間]	専門研修 群馬大学医学部附属病院などの県内の特定病院に勤務し、臨床研究を進めたり、専門医取得の研修などを行う。
中断期間を除く10年間			

- 3) 県外での病院研修や海外留学を行い、その期間を返還義務中断期間とする。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	臨床研修 群馬大学医学部 附属病院や県内 の臨床研修病院 での研修	専門研修 群馬大学医学部附属病院などの県内の特定病院に勤務し、専門医取得の研修などを行う。	県外研修 県外の病院での臨床技術の習得や海外留学。※ [中断期間]	専門研修 群馬大学医学部附属病院など県内の特定病院に勤務し、県外で得られた技術を活用したり、専門医取得の研修などを行う。
中断期間を除く10年間				

※県外の病院での臨床技術の習得は、特定病院で実施する専門研修のプログラムの一環としての場合に限ります。

- 4) 産休・育児休業の期間を返還義務中断期間とする。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	臨床研修 群馬大学医学部 附属病院や県内 の臨床研修病院 での研修	専門研修 群馬大学医学部附属病院などの県内の特定病院に勤務し、専門医取得の研修などを行う。	産休・育休 [中断期間]	専門研修 群馬大学医学部附属病院など県内の特定病院に勤務する。複数の専門医取得の研修も可能。
中断期間を除く10年間				

(注)上記は、群馬県の修学資金貸与制度の特色である、返還義務中断期間を活用しながら、卒業後のキャリアアップなどを図るモデルケースです。返還義務中断期間の取扱いで御不明な点は群馬県ホームページの「群馬県緊急医師確保修学資金制度」の御案内 (<https://www.pref.gunma.jp/02/d1010069.html>) を御覧になるか、群馬県庁健康福祉部医務課医師確保対策室 (027-226-2540) へお問合わせください。また、キャリア形成については群馬県地域医療支援センター (027-220-7938) へお問合わせください。

2. 選抜方法

選抜方法等 学科名		大 学 入 学 共通テスト	個 別 学 力 検 査 等				調査書	志 願 理由書
			学力試験	面 接	小論文	外国語におけるリスニングテスト		
医 学 科	前期日程	○	○	○	○	×	○	○
保健学科(全専攻)	前期日程	○	×	×	○	×	○	×
	後期日程	○	×	×	○	×	○	×

(1) 医学科

大学入学共通テスト、個別学力検査等、調査書及び志願理由書（地域医療枠で出願する者のみ）を総合して判定します。合格者の判定はそれぞれの出願区分の基準により実施します。なお、入学後、地域医療枠を辞退することは、出願要件の趣旨に反することから、理由の如何を問わず認めません。

また、地域医療枠で出願した場合、合格者判定の結果、合格にならなかった場合、一般枠にて再度合格者の判定を行います。課せられた試験等は、全て受験しなければ失格となります。

個別学力検査等（学力試験、面接、小論文）のいずれかに不良のものがあった場合は、総合点にかかわらず不合格とします。

(2) 保健学科

大学入学共通テスト、個別学力検査等及び調査書を総合して判定します。

課せられた試験等は、全て受験しなければ失格となります。

保健学科の理学療法学専攻及び作業療法学専攻については、募集人員の一部を第2志望専攻の志願者から選考することがあります。なお、第2志望専攻の合格者となった場合は、第1志望専攻に入学辞退者が出た場合の追加合格者とはなりません。

(3) 2段階選抜について（医学部医学科のみ）

① 医学部医学科では、志願者数が次の場合にそれぞれ実施することがあります。

学 科	日 程
医学部医学科	前期日程
	約3倍（一般枠と地域医療枠の志願者数の合計が募集人員の3倍を超えた場合は、2段階選抜を実施することがあります。その場合、一般枠で189名程度、地域医療枠で24名程度の志願者を、第1段階選抜の合格者としします。）

第1段階選抜は、大学入学共通テストの成績（前期日程の選抜における配点）により行い、その合格者を対象に個別学力検査等を実施し、最終的な合格者を決定します。

② 発表方法

2月14日(月)から17日(木)の間に、第1段階選抜合格者には受験票PDFを発行します（詳細はメールでお知らせします）。不合格者には不合格通知書及び検定料返還申出書を簡易書留速達郵便で発送します。

なお、2段階選抜を実施しなかった場合は、受験票PDFを全員に発行します（詳細はメールでお知らせします）。

2月17日（木）を過ぎても印刷できない場合は、群馬大学学務部学生受入課入学試験係〔電話 027-220-7150〕に問合せください。

※ 2段階選抜実施状況は、群馬大学ホームページ（入試案内）〔<https://www.gunma-u.ac.jp/>〕に掲載します。

(4) 個別学力検査等の教科・科目等

日程	学 科	教 科 ・ 科 目 等	出 題 意 図	摘要
前期日程	医 学 科	数 学	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B	数学的な知識、能力（計算力、数理的思考力）が備わっているか判断します。
		理 科	物基、物、化基、化	・物理に関する基礎的な知識をみるとともに、基礎的な知識を用いて問題を解析し、的確に表現する総合的な能力を評価します。 ・高等学校で学ぶ「化学基礎」及び「化学」から幅広く出題し、化学に関する学習内容の理解度を評価します。
		小 論 文	国語と英語の能力を問うことがあります。	医学の勉学に必要な理解力、思考力、文章表現力などを含む総合力を判定する問題を課します。
		面 接	集団面接／25分／面接員複数	医学を学び、将来は医学・医療に携わって社会に貢献する人材としてふさわしい人格と適性を評価します。
	保健学科 (全専攻)	小論文Ⅰ	英語の能力を問うことがあります。	英文を読み、論点を的確に理解、把握する能力をみます。
		小論文Ⅱ	理系の能力を問うことがあります。	物理、化学、生物など理系の基礎学力と理解力、及び自然現象を総合的に捉え考察する能力をみます。
後期日程	保健学科 (全専攻)	小論文Ⅰ	国語と英語の能力を問うことがあります。	国語と英語を正確に読み、筆者が述べている論点を的確に理解し把握する力があるかどうかをみます。
		小論文Ⅱ	理系の能力を問うことがあります。	自然系を題材とします。 入学後の専門教育修得のための基礎学力を把握するために、理系の基礎学力と理解力に加えて、自然現象を総合的に捉え、考察する能力をみます。

(5) 個別学力検査等日時

前期日程

学 科	月日	時間							
		9:00	9:30	11:30	12:40	13:00	15:00	15:40	17:30
医 学 科	2月25日（金）	諸注意	数学		諸注意	理科		諸注意	小論文
	2月26日（土）	受付 諸注意（面接の詳細については2月25日（金）に通知します。） 面接							
学 科	月日	時間							
		9:30	10:00	11:30	12:40	13:00	14:30		
保健学科 (全専攻)	2月25日（金）	諸注意	小論文Ⅰ		諸注意	小論文Ⅱ			

後期日程

学 科	月日	時間							
		9:30	10:00	11:30	12:40	13:00	14:30		
保健学科 (全専攻)	3月12日（土）	諸注意	小論文Ⅰ		諸注意	小論文Ⅱ			

(注) 1 諸注意等があるので試験開始30分前までには、定められた試験室に入室してください。

2 遅刻した者は、試験開始後30分（面接は集合時刻の30分後）までは受験を認めます。ただし、試験時間は延長しません。

3 面接試験時に追加の資料提出は認めません。

(6) 個別学力検査等試験場

日程	学 科	月 日	試 験 場	所 在 地	試験場までの交通について	受付開始時刻
前期日程	医 学 科	2月25日 (金)	群馬大学 医 学 部	前橋市昭和町 3-39-22	60ページ「4. 個別学力検査等試験場までの交通について」参照	8時30分
		2月26日 (土)				2月25日 (金) に通知します
	保健学科 (全専攻)	2月25日 (金)				9時
後期日程	保健学科 (全専攻)	3月12日 (土)				9時

(7) 学力試験等の配点

日程	学 科	大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点									
		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文(I)	小論文(II)	面接
前期	医 学 科	大学入学共通テスト	100	*50	*50	100	100	100			
		個別学力検査等				150	150		150		※
	保健学科	大学入学共通テスト	200	*100	*100	200	200	200			
		個別学力検査等							225	225	
後期	保健学科	大学入学共通テスト	200	*100	*100	200	200	200			
		個別学力検査等							225	225	

(注) 1 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等については、18ページを参照してください。

- 2 大学入学共通テストの英語については、リスニングテストを含み、利用方法については、次のとおりとします。
医学科・保健学科

大学入学共通テストの英語の配点は、リーディング100点、リスニング100点となっていますが、本学では、リーディングとリスニングの配点を4:1とします。具体的には、リーディング160点満点、リスニング40点に換算し、合わせて200点満点とし、素点とします。なお、英語を選択しリスニングを免除された場合はリーディングの点数(100点)の傾斜配点(×2.0)を行い素点とし、英語以外の外国語を選択した場合については、筆記の点数(200点)を素点とします。

- 3 医学科の前期日程では、大学入学共通テストの各教科について、傾斜配点(×0.5)を行います。
4 配点に*印をしてある教科は選択教科を表します。
5 面接(※印)は総合判定の資料とします。なお、面接時間は状況に応じて変わる場合があります。

3. 注意事項

- (1) 試験室は掲示(図示)によって案内し、試験室の下見は認めません。
(2) 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。
(3) 受験者は、昼食を持参してください。
(4) 群馬大学では、受験の際の宿泊施設等の斡旋は行いません。

2022 年 度
(令和 4 年度)

学校推薦型選抜学生募集要項

新型コロナウイルス感染症の
状況により選抜方法等が変更
となる可能性がありますので
本学ホームページで最新情報
を確認してください。



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

群馬大学医学部医学科の入学定員について（確定）

認可申請中であった医学部臨時定員増は、令和３年１０月２７日付けで文部科学省より認可されました。

よって、令和４（２０２２）年度の入学定員は下表のとおりとなりましたのでお知らせします。

表

入学定員	募集人員			
	学校推薦型選抜		一般選抜前期日程	
108	一般枠	地域医療枠	一般枠	地域医療枠
	25	12	65	6

1. 学校推薦型選抜を実施する学部・学科等及び募集人員

学 部	課 程	系	専 攻	募 集 人 員
共同教育学部	学校教育教員養成課程	人 文 社 会 系	国 語 専 攻	5 名
			社 会 専 攻	4 名
		自 然 科 学 系	数 学 専 攻	8 名
			理 科 専 攻	3 名
			技 術 専 攻	1 名
		芸 術 ・ 生 活 ・ 健 康 系	音 楽 専 攻	4 名
			美 術 専 攻	2 名
			保 健 体 育 専 攻	3 名
		教 育 人 間 科 学 系	教 育 専 攻	2 名
			教 育 心 理 専 攻	2 名
			特 別 支 援 教 育 専 攻	5 名

(注)1 入学手続き者が募集人員に満たない場合は、原則として、前期日程の募集人員に、この満たない人数を加えます。

(注)2 上記以外の専攻は実施しません。

学 部	学 科	募 集 人 員
情 報 学 部	情 報 学 科	50 名

(注)1 入学手続き者が募集人員に満たない場合は、原則として、前期日程の募集人員に、この満たない人数を加えます。

(注)2 募集人員には、プログラム特別枠で最大で合計20名（各プログラム最大5名）及びGFL特別枠若干名を含みます。

学 部	学 科 ・ 専 攻	〔出願区分〕	募 集 人 員
医 学 部	医 学 科	〔 一 般 枠 〕	25 名
		〔 地 域 医 療 枠 〕	12 名 (注)2
	保 健 学 科	看 護 学 専 攻	30 名
		検 査 技 術 科 学 専 攻	9 名
		理 学 療 法 学 専 攻	8 名
		作 業 療 法 学 専 攻	8 名

(注)1 入学手続き者が募集人員に満たない場合は、原則として、前期日程の募集人員に、この満たない人数を加えます。

(注)2 地域医療枠の募集人員については、医学部臨時定員増の認可申請中であり、申請が認められた場合の募集人員となります。

学 部	類	募 集 人 員
理 工 学 部	物 質 ・ 環 境 類	90 名
	電 子 ・ 機 械 類	55 名

(注)1 総合型選抜の入学手続き者が募集人員に満たない場合は、原則として、学校推薦型選抜の募集人員に、この満たない人数を加えます。

(注)2 入学手続き者が募集人員に満たない場合は、原則として、前期日程の募集人員に、この満たない人数を加えます。

(注)3 各類の募集人員にはGFL特別枠若干名を含みます。

◎ 医 学 部

(1) 医 学 科

次の①及び②全てに該当する者

- ① 出身学校における調査書類、学習成績、適性評価等に優れ、かつ、調査書の学習成績概評が A 段階に属し、人物も優れている者

※ ①に該当する者については、調査書に①と表示してください。

- ② 出身学校において、数学については、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学 A 及び数学 B のうち 2 科目以上、理科については、物理、化学及び生物のうち 2 科目以上を履修又は履修見込みの者

※ 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校においては、数学についてはマセマティックス SL 又はマセマティックス HL のいずれか、理科についてはフィジクス HL、ケミストリー HL、バイオロジー HL のうち 2 科目以上を履修又は履修見込みの者

上記①及び②の要件を満たし、群馬県内の地域医療に貢献したいという強い意志を持ち、群馬県からの修学資金の貸与を希望する者は地域医療枠の出願が必要です。

なお、地域医療枠で出願する者は、出願資格のほか、「群馬県緊急医師確保修学資金制度について（学校推薦型選抜）」に記載する対象者要件に該当しなければなりません。

合格者の判定はそれぞれの出願区分の基準により実施します。

○ 一般枠

医師や医学研究者等を目指す一般的な選抜枠で、群馬県からの修学資金貸与を希望しない場合の出願区分です。

○ 地域医療枠

群馬県の将来の医療を担うという強い意志を持ち、群馬県からの修学資金貸与を希望する場合の出願区分です。なお、入学後、地域医療枠を辞退することは、出願要件の趣旨に反することから、理由の如何を問わず認めません。

また、合格判定の結果、合格とならなかった場合、一般枠にて再度合格者の判定を行います。

- 群馬県の修学資金貸与制度の概要は、下記の「群馬県緊急医師確保修学資金貸与制度について（学校推薦型選抜）」を参照してください。
- 地域医療枠合格者は、群馬大学医学部や群馬県等が企画する県内医療に関する特別プログラムに参加します。
- 地域医療枠合格者は、卒業後10年間は、群馬大学医学部附属病院を含む群馬県内の特定病院の中から選択し、臨床研修及び診療業務に当たります。医師としての柔軟なキャリア形成が可能です。後出のキャリアモデルを参考にしてください。

1 対象者要件

「出願資格」（14ページ）及び「出願要件」（18ページ）に該当する者であって、次のいずれかに該当するもの

- (1) 群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者
- (2) 群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育を修了見込みの者
- (3) 上記(1)及び(2)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの
 - ① 出願時の住所が群馬県内にある者
 - ② 出願時に父母、祖父母又は配偶者のうち、いずれかの者の住所が群馬県内にある者
 - ③ 出願時の本籍が群馬県内にある者

2 提出書類

「4 出願手続(7)提出が必要な出願書類等」（28～29ページ）に示す出願書類のほか、次の書類をあわせて提出すること。

なお、(1)～(3)の書類にあつては、上記1(1)又は(2)に該当する者は除きます。

- (1) 〔1(3)①に該当する者〕住民票の写し
- (2) 〔1(3)②に該当する者〕父母、祖父母又は配偶者の住民票の写し及び出願者との関係がわかるもので次のいずれか一つ。
 - ・住民票の写し（続柄が記載されているもの）
 - ・出願者の出身高等学校等が発行する証明書（任意様式・学校長の証明印があるもの）
 - ・健康保険証の写し（続柄が記載されているもの）
 - ・市(区)役所、町村役場が発行するもので関係がわかるもの
- (3) 〔1(3)③に該当する者〕市(区)役所、町村役場が発行するもので本籍が証明できるもの
 ※住民票の写しは、出願日前3ヶ月以内に発行されたもので、個人番号（マイナンバー）が記載されていないものとします。
- (4) 〔全員〕所定の様式に本人及び保護者（又は法定代理人）が署名、押印した同意書

3 貸与期間

6年間

4 修学資金貸与額（予定）

原則月額 10万円（ただし、本人及び生計を一にする者の所得額の合計が1,500万円未満の場合は15万円）

※「生計を一にする者」とは、主に、次に掲げる者

- ・修学資金の貸与を受けようとする者と同一世帯の父母
- ・修学資金の貸与を受けようとする者の所得税法(昭和40年法律第33号)第2条第1項第33号に規定する同一生計配偶者
- ・その他、これらに類する者と知事が認める者

※初年度は、入学料相当額が加算されて貸与されます。

5 貸与条件

- (1) 群馬県内の地域医療に貢献したいという強い意志を持ち、卒業後、県内の特定病院に

において、貸与期間の3分の5に相当する期間（10年間＝従事必要期間）、卒後臨床研修及び診療業務に従事すること。

(2) 従事必要期間（10年間）のうち、臨床研修修了後の4年間以上は、群馬県保健医療計画に明記される医師不足地域の特定病院又は特に不足する診療科のうちから被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する特定病院又は診療科に勤務すること。ただし、へき地医療拠点病院又はへき地診療所に勤務する場合は3年間以上とする。

(3) 従事必要期間（10年間）は、群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」に参加すること。

〔補足〕

- ・「医師不足地域」、「特に不足する診療科」は、将来、勤務することとなる時点の保健医療計画に明記されます。
- ・貸与期間中に修学資金貸与を辞退することは、原則として認めません。
また、留年した場合は、当該留年に係る期間は貸与を受けることができません。

6 返還

卒業後、県内の特定病院において、従事必要期間（10年間）、卒後臨床研修及び診療業務に従事した場合は、修学資金の返還が全額免除されます。

しかし、次のような場合は、貸与期間に年10%の割合で計算した利息を加算して、貸与した修学資金を返還することが必要です。

- ・貸与条件を満たさないこととなった場合（ただし、特定病院における在職期間に応じて、返還が一部免除になります。）
- ・卒業の翌年までの医師国家試験に合格できなかった場合
- ・卒業後、県内の特定病院で臨床研修に従事しなかった場合

7 貸与手続

入試合格後、群馬県による意思確認の面接を経て、群馬県との間で貸与手続（貸与申請書の提出、貸与契約書の締結等）を行います。その際、連帯保証人2名が必要です。

※詳細は別途案内します。

なお、修学資金は、二月ごとにその期間分を貸与する予定です。

《制度の特色》

群馬県による本制度には下記のような特色がありますので、卒後臨床研修先の選定や、その後の診療業務、大学院進学、留学、研修等について、柔軟に計画することが可能となります。

① 卒業後に従事する特定病院は、被貸与者が選択することができます。

ただし、「5 貸与条件」(2) に示す特定病院又は診療科は被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する特定病院又は診療科になります。

② 群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」により、卒業後10年間のキャリア形成を支援します。キャリアパスは、地域間・病院間ローテーションにより、キャリアアップと地域医療への貢献を実践できるものです。

③ 卒業後、従事必要期間（10年間）は県内の特定病院での従事が必要となりますが、次のようなケースは返還義務中断期間として認められます。

- i) 疾病・災害で業務に従事できなかった期間
- ii) 産休・育児休業した期間
- iii) 大学院（医学を履修する課程に限る）に在学した期間→5年まで可

- iv) 外国の大学・大学院、医療機関、研究施設等において医学研修等に従事した期間→5年まで可
- v) 特定病院で実施する専門研修のプログラムの一環として特定病院以外の病院に勤務した期間→3年まで可
- vi) 県の医療水準向上に資する専門知識習得のため特定病院以外の病院に勤務した期間→3年まで可

《特定病院について》

「県内の特定病院」には、群馬大学医学部附属病院のほか、次の病院が予定されています。いずれも公的な側面が強い地域の中核的な病院です。これらの病院の医師不足解消も大きな目的の一つです。

群馬県立心臓血管センター、群馬県立がんセンター、群馬県立精神医療センター、群馬県立小児医療センター、前橋赤十字病院、公益財団法人老年病研究所附属病院、独立行政法人地域医療機能推進機構群馬中央病院、群馬県済生会前橋病院、前橋協立病院、独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター、医療法人社団日高会日高病院、公立碓氷病院、独立行政法人国立病院機構渋川医療センター、公立藤岡総合病院、藤岡市国民健康保険鬼石病院、下仁田厚生病院、公立富岡総合病院、公立七日市病院、吾妻広域町村圏振興整備組合立中之条病院、原町赤十字病院、西吾妻福祉病院、独立行政法人国立病院機構沼田病院、利根中央病院、伊勢崎市民病院、社団法人伊勢崎佐波医師会病院、桐生厚生総合病院、SUBARU健康保険組合太田記念病院、公立館林厚生病院

以上のほか、協力型臨床研修病院、へき地診療所、二次救急輪番病院。

《修学資金貸与制度に関する問合せ先》

群馬県庁 健康福祉部医務課 医師確保対策室 電話：027-226-2540（直通）

地域医療枠合格者の卒業後のキャリアモデル

- 1) 専門研修の間に、群馬大学大学院医学系研究科の社会人入試制度を利用して、返還義務期間を中断することなく、博士（医学）の学位を取得することもできる。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	臨床研修 群馬大学医学 部附属病院や 県内の臨床研 修病院での研 修	専門研修	
		群馬大学医学部附属病院など県内の特定病院に勤務し、専門医取得の研修などを行う。この期間中の4年間、群馬大学大学院医学系研究科に社会人入試で入学し、研究論文をまとめ博士(医学)の学位を取得することもできる。	
		10年間	

- 2) 大学院医学系研究科に入学し、先端研究に従事して博士（医学）の学位を取得する。
大学院在学中の期間を返還義務中断期間とする。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	臨床研修 群馬大学医学 部附属病院や 県内の臨床研 修病院での研 修	大学院医学系研究科 博士課程一般入試で入学し て先端研究に従事し、博士 (医学)の学位を取得する。 〔中断期間〕	専門研修 群馬大学医学部附属病院など県内の特定病院に勤務し、臨 床研究を進めたり、専門医取得の研修などを行う。
-----------------------------	---	--	---

中断期間を除く10年間

- 3) 県外での病院研修や海外留学を行い、その期間を返還義務中断期間とする。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	臨床研修 群馬大学医学部 附属病院や 県内の臨床研 修病院での研 修	専門研修 群馬大学医学部附属 病院など県内の特定 病院に勤務し、専門 医取得の研修などを 行う。	県外研修 県外の病院での 臨床技術の習得 や海外留学。※ 〔中断期間〕	群馬大学医学部附属病院など県内の 特定病院に勤務し、県外で得られた 技術を活用したり、専門医取得の研 修などを行う。
-----------------------------	---	---	---	---

中断期間を除く10年間

※県外の病院での臨床技術の習得は、特定病院で実施する専門研修のプログラムの一環としての場合に
限ります。

- 4) 産休・育児休業の期間を返還義務中断期間とする。

医学部 (6年間) 修学資金 の貸与	臨床研修 群馬大学医学部 附属病院や 県内の臨床研 修病院での研 修	専門研修 群馬大学医学部附属 病院など県内の特定 病院に勤務し、専門 医取得の研修などを 行う。	産休・育休 〔中断期間〕	専門研修 群馬大学医学部附属病院など県内の 特定病院に勤務する。複数の専門医 取得の研修も可能。
-----------------------------	---	---	-----------------	---

中断期間を除く10年間

(注) 上記は、群馬県の修学資金貸与制度の特色である、返還義務中断期間を活用しながら、卒業後のキャリアアップなどを図るモデルケースです。返還義務中断期間の取扱いで御不明な点は群馬県ホームページの「群馬県緊急医師確保修学資金制度」の御案内 (<https://www.pref.gunma.jp/02/d1010069.html>) を御覧になるか、群馬県庁健康福祉部医務課医師確保対策室(027-226-2540)へお問合せください。

また、キャリア形成については、群馬県地域医療支援センター（027-220-7938）へお問い合わせください。

【プログラム特別枠・GFL特別枠】

○は課す ×は課さない

面 接	小論文	備 考
○ 個人面接／20分／ 面接員複数	○ 文系型または理系型の いずれかを当日、選択	小論文の文系型及び理系型のそれぞれの 得点は素点としますが得点調整を行うこ とがあります。

(注) 面接時間は状況に応じて変わる場合があります。

試験等日時

時 間 月 日	8:20	9:00	11:00	12:30
	8:40		12:20	
11月20日(土)	受 付	諸 注 意	小論文	諸 注 意 面 接 面接の終了時刻は、遅くなる 場合があります。

- (注) 1 受験者の入構開始時刻は8時です。諸注意等があるので試験開始30分前までには、定められた試験室に入室してください。
2 遅刻した者は、試験開始後30分までは受験を認めます。ただし、試験時間は延長しません。

試験場

試 験 場	所 在 地	試験場までの交通案内
群馬大学 情報学部	前橋市荒牧町4-2	49ページ「試験場までの交通案内」参照

(注) 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。

◎ 医 学 部

(1) 医 学 科

選考は、大学入学共通テスト、面接・小論文及び出願書類（調査書、推薦書、適性資質調査書、志願理由書（地域医療枠で出願する者のみ））を総合して判定します。

合格者の判定はそれぞれの出願区分により行い、面接及び小論文の総得点（大学入学共通テストの成績は含まない）を基準とし、実施します。大学入学共通テストの成績は学力水準の到達度を判定する資料とします。

大学入学共通テスト、面接及び小論文のいずれかに不良のものがあつた場合は、総合点にかかわらず不合格とします。

なお、入学後、地域医療枠を辞退することは、出願要件の趣旨に反することから、理由の如何を問わず認めません。

また、地域医療枠で出願し、合格判定の結果、合格とならなかった場合、一般枠にて再度合格者の判定を行います。

【出願区分】

出 願 区 分
一 般 枠
地 域 医 療 枠

試験・配点等

個別学力検査等の配点	
小論文	面接（集団面接／40分／面接員複数）
100	※

- (注) 1 面接（※）の点数は、偏差値化した値（平均50）を用います。
 2 面接時間は状況に応じて変わる場合があります。

大学入学共通テストの利用教科・科目名		配点
教科	科目名等	
国	国【必須】	200
地歴	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B	100
公民	現社、倫理、政経、倫・政経	200
数	数Ⅰ・数A【必須】 数Ⅱ・数B【必須】	200
理	物理、化学、生物から2	200
外国語	英、独、仏から1	200
[5教科7科目]		

- (注) 1 「地歴」及び「公民」については、同一名称を含む科目（「地理A」と「地理B」、「倫理」と「倫理、政治・経済」等）を組み合わせることはできません。
 2 「地歴」及び「公民」について、計2科目受験している場合は、第1解答科目の成績を用います。
 3 「英語」については、リスニングを含み、利用方法については、次のとおりとします。
 大学入学共通テストの英語の配点は、リーディング100点、リスニング100点となっていますが、本学では、リーディングとリスニングの配点を4：1とします。具体的には、リーディング160点満点、リスニング40点満点に換算し、合わせて200点満点とします。なお、英語を選択しリスニングを免除された場合はリーディングの点数（100点）の傾斜配点（×2.0）を行い、英語以外の外国語を選択した場合については、筆記の点数（200点）を配点とします。
 4 利用教科・科目等は53ページの「大学入学共通テスト受験教科・科目 自己確認表」を併せてご確認ください。

試験等日時

時 間	9:30	11:30	13:00	14:30	15:30	17:00
月 日		12:40		15:15		
11月20日（土）		受 付	諸 注 意	小論文	諸 注 意	小論文
11月21日（日）	面 接 面接の詳細については11月20日（土）に通知します。					

- (注) 1 諸注意等があるので試験開始30分前までには、定められた試験室に入室してください。
 2 遅刻した者は、試験開始後30分（面接は集合時刻の30分後）までは受験を認めません。ただし、試験時間は延長しません。
 3 面接試験時に追加の資料提出は認めません。

試験場

試 験 場	所 在 地	試験場までの交通案内
群馬大学 医学部	前橋市昭和町3-39-22	50ページ「試験場までの交通案内」参照

(注) 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。

将来、地元で活躍する医師になりたい!

 ぐんまの医師生活 **120%上昇**

▶ 医学部版! 受験のトリセツ

▶ センターの取り組み

▶ 保護者も知りたい地域医療枠

医師

 医師になるには?
 (高校生Gドクターズ
 申込フォーム)

新人医師です!

座談会

～新人医師のライフスタイル～

手術中

 体験してみよう!
 mini VRセミナー

 医師を目指す方への
 メッセージ

職場体験セミナー

セミナー体験報告

お知らせ

Facebook

2022.08.09 イベント

【8/9追記】開催方法のご案内:「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2022夏」

標記セミナーにつきまして、最終的な開催方法を以下のとおりお知らせします。なお、その他の日程につきまして...[続きを読む](#)

2022.07.25 イベント
7/25追記【開催中止のご案内】「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2022夏」について

以下の日程において、標記セミナーの開催中止のご連絡がありました。誠に残念ではございますが、何卒ご容...[続きを読む](#)

2022.07.11 イベント
選考結果のご案内「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2022夏」参加者決定のお知らせ

標記セミナーにつきまして、140名を超える多くの方からお申込みいただき誠にありがとうございました。...[続きを読む](#)

2022.06.28 お知らせ
「医学部版！ 受験のトリセツ」ページを更新しました！
医学部医学科1年生に、高校3年生の1年間の勉強についてアドバイスをもらいました。医学部医学科進学を...[続きを読む](#)

2022.06.24 イベント
！応募を締め切りました！「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー2022夏」開催のご案内
※7/7追記 【本セミナーへの応募を締め切りました】定員を大幅に上回る、130名以上の方からご応募...[続きを読む](#)

2022.03.10 お知らせ
「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」改訂のご報告
標記キャリアパスホームページの「キャリアパス一覧」を改訂しましたのでご報告いたします。改訂にご協力...[続きを読む](#)

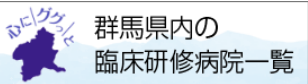
[お知らせ一覧を見る](#)











[サイトマップ](#) | [プライバシーポリシー](#) | [SNS運用方針](#)



Gunma Medical Career Center
GMCC 群馬県地域医療支援センター

for students

医師をめざす高校生・受験生のあなたへ

医学部をめざすみなさんへ

医学部を目指した理由は
3つのいずれかに当てはまるようです。

1. 自分や家族の病気やけがをきっかけにして目指すようになった
2. 人や社会に貢献できる仕事をしたいと思った
3. 家族に医療関係の仕事をしている方がいて身近に感じていた

高校3年の時は、学校以外の勉強は2時間くらい、テスト一週間前も2時間、三日前は4時間勉強していました。部活は高校2年まで運動部に入っていました。自分で解けない問題はきょうだいに聞いていましたね。医学部受験では、高校の勉強以外にも「PCR検査とは？」というような基礎的な医学知識くらいは調べておきましょう。面接で普通に聞かれます。勉強は、授業をちゃんと寝ないで受けて、定期テストでしっかり勉強すれば大丈夫です。あと模試結果で一喜一憂しないことですね。本番を目標に据えましょう！

高3の平日は4時間以上勉強していました。テスト前は平日が4.5時間、休日は10時間勉強していましたよ。部活は文化部で、高3の夏頃まで所属していました。自分で解けない問題は、学校の先生に聞いたり、インターネットで調べていました。医学部受験のポイントは、基礎から標準的な問題を解くことです。背伸びしすぎないことが大切です。私は推薦入試でしたが、自分の志望校の傾向をおさえておくとういと思いますよ。勉強中のリフレッシュ方法は、友達と話すことかなと思います。辛いことも、嬉しかったことも。YouTubeとかだと止まらなくなっちゃうので、あまりおすすめできません笑 甘いものを食べるのもいいと思います！

お申し込みと
詳しくはこちら



受験生だけでなく、受験生を応援したい保護者の皆様、学校関係者の皆様も知っておきたい医学部情報・群馬県内の医療に関する情報を随時配信しています！

お問い合わせ

群馬県健康福祉部医務課医師確保対策室
群馬県地域医療支援センター事務局

☎ 027-226-2540
☎ 027-220-7938

学則変更の趣旨 - 45

高校生 Gドクターズ

ぐんまの医師生活 **120%上昇**



将来、地元で活躍する医師になりたい！



Gunma Medical Career Center

GMCC 群馬県地域医療支援センター

for students

医師をめざす高校生・受験生のあなたへ

地域医療支援センターってなに？

1 専任医師による相談

医学生やぐんまの医療を支える若手医師のキャリア形成、悩みなど、何でも相談にのります。



2 イベントの開催

医師をめざす高校生・医学生・若手医師にむけた各種イベントを開催します。



3 医療情報の発信

医学の道を目指す高校生向けの情報発信をはじめました。



4 若手医師の支援

その他、ぐんまの医療を担う若手医師を支えるための取り組みを継続します。



高校生の職場体験セミナー

将来医師をめざしている、または医療に興味のある高校生の皆さん向けの、医療現場を実際に見学・体験できるセミナーです。



職場体験セミナーは、地域で必要とされる医療・医師の姿や、医師の医療に対する思いなどを実際に学ぶチャンスです。



医師をめざす高校生にとっては、個々の学力向上はもちろんですが、医療現場の実情を知り医療とそれに携わる医師の仕事への理解を深めておくことが大切です。



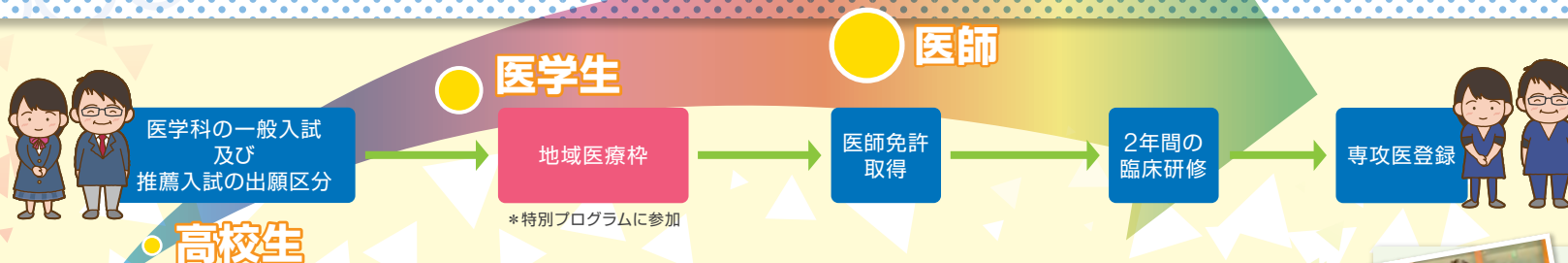
職場体験セミナー
詳しくはこちら



想像してみてください 医師になった未来のあなたの姿を



地域医療枠ってなに？



ぐんまの地域医療に貢献したいという強い意志を持ち、群馬大学医学部医学科に地域医療枠として進学する学生に対し、群馬県では修学資金を貸与しています。指定の要件をすべて満たした場合に、修学資金の返還が免除されます。

卒業後のキャリア形成も支援

地域医療枠学生は、他の学生と同様、教養教育科目・専門教育科目を学ぶと共に、課外活動として地域医療支援センターが実施する地域医療に関する特別プログラムに参加し、群馬県の医療や福祉について学びます。大学卒業後は、「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」により、初期研修、専門領域の研修、専門医資格や学位の取得など、若手医師が目指す将来像に応じて、群馬県内の関係各機関と連携し、“オールぐんま”でキャリア形成を支援します。

群馬県緊急医師
確保修学資金制度



群馬大学医学部や群馬県等が企画する
特別プログラムの例

- 地域医療枠学生情報交換会
- 地域医療体験セミナー
- 卒業生との座談会
- 群馬県・専任医師との面談
etc.





Gunma Prefecture
群馬県

×



国立大学法人
群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

群馬大学医学部医学科地域医療枠 受験希望者向け 説明会のご案内

動画配信

群馬県と群馬大学では、群馬大学医学部医学科地域医療枠の受験を希望する方に対し、地域医療枠制度への理解をより深めていただくため、下記のとおり説明会動画を配信します。

1 対象者

高校生（１～３年生）・予備校生及びその保護者、高校・予備校関係者

2 内容

- 県内の医師不足状況について
- 入学者に求める能力・資質について
- 医学部医学科地域医療枠受験にあたって
- 地域枠学生及び卒後医師からのメッセージ など

申込みフォームURL



QRコードを読み取ってください。

3 申込み方法

視聴を希望する方は、以下の申込みフォームから必要事項を入力し、お申込みください。動画配信後、視聴URLをご案内します。

https://s-kantan.jp/pref-gunma-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=4990

※ 受付期間は令和４年１月３１日（月）までです。

※ 動画配信期間は、１０月中旬～令和４年２月末までです。

問合せ先

群馬県 健康福祉部 医務課 医師確保対策室

☎ 027-226-2540 ✉ inmuka@pref.gunma.lg.jp



2022 年度 前期 医学部 医学科			日英区分 :日本語
医系の人間学 1 A			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
MB1003	MB-1-HS111-J		
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
服部 健司 [Hattori Kenji], 森 禎徳 [Mori Yoshinori]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
	1年次 ~ 2年次	3	

授業の目的

この授業では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心に向け、心情を想像する力、人とのコミュニケーションのはかり方、自己表現力、他者のニーズに対して柔軟に対応する仕方を学び、医師になろうとする者に必要な、医学的な知と技術以外の、基本的な素養を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その経験知をふやす。(B4, B5, C3)
さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につける。(C2, C4,D2)
相手のことを知ろうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のありようやニーズを推測することができる。相手との間合いのとり方をさぐることができるようになるための基礎を学ぶ。(A5, C5, C6)

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- コンピテンシーとの関連を示す。
A：諸科学についての基礎的知識と理解
B：論理的・創造的思考力
C：コミュニケーション能力 ◎
D：社会的倫理観・国際性
E：自己省察力 ◎
F：知識の獲得と知識を応用する力◎
G：チーム医療の中で協働する力○
H：基本的な総合診療能力
I：地域医療の向上に貢献する能力
J：医学研究を遂行する能力
K：自己研鑽

授業概要

タイプA～Cの授業が組み合わせられている。
タイプA: トピックごとに厳選された（教科書には載らないような）テキストの講読（2-3コマで完結）を通して、人間知や社会についての知のインプットを図る。
タイプB: ドキュメント番組や教育番組など視聴覚教材を観た後に、学生間で意見交換を行い、これに教員が適宜介入する。同じ映像を視聴しても、学生間で見方や受け止め方は大きく異なる。対話を通して、自分の見方が標準や唯一絶対ではなく、さまざまな視点があるということを繰り返し体験する。供覧する映像教材については、医学・医療とは直接関わりがないものの社会のあり様や人々の人生・生活をよく描いたものから、医学・医療色の強いものまで、幅広く用意される。
タイプC: 学外から専門家と複数のアシスタントを招聘し、インプットと同時にアウトプット（身体表現・活動）に重心をおいた教育を行う。

毎回決められた期限内にリアクションペーパーをGULMSに送信してもらう。

授業の形式（授業方法）

回ごとに異なる。講義形式のものから、テキストや視聴覚教材をもとに意見交換するもの、体験型実習、身体表現系パフォーマンスまで用意されている。

授業スケジュール

上段は13:00～14:30 下段は14:40～16:10

- 4月11日
保健学科との合同授業(1)
学生生活でつまずいても回復できる工夫 福田正人・藤平和吉
4月18日
インプロ(1) 内海隆雄・野村真之介ほか
インプロ(2) 内海隆雄・野村真之介ほか
4月26日
ヒューマンエラー(1) 小松康宏
ヒューマンエラー(2) 小松康宏
5月2日
保健学科との合同授業(2)
病院ではたらくということ(1) 岸美紀子・田中和美
5月9日
保健学科との合同授業(3)
病院ではたらくということ(2) 岸美紀子・田中和美
5月16日
保健学科との合同授業(4)
病院ではたらくということ(3) 岸美紀子・田中和美
5月23日
家族社会学(1) 服部健司
家族社会学(2) 服部健司
5月30日
家族社会学(3) 服部健司
家族社会学(4) 服部健司
6月6日
認知症高齢者の意思を考える(1) 伊東美緒

認知症高齢者の意思を考える(2) 伊東美緒
6月13日
家族社会学(5) 宮島美穂
家族社会学(6) 宮島美穂
6月20日
家族社会学(7) 遠藤雪恵・宮島美穂
家族社会学(8) 遠藤雪恵・宮島美穂
6月27日
家族社会学(9) 服部健司
家族社会学(10) 服部健司
7月4日
家族社会学(11) 遠藤雪恵・森禎徳
家族社会学(12) 遠藤雪恵・森禎徳
7月11日
家族社会学(13) 遠藤雪恵・宮島美穂
家族社会学(14) 遠藤雪恵・宮島美穂
7月26日
病院ではたらくということ(4) 田中和美
病院ではたらくということ(5) 田中和美

上段は 13:00-14:30 下段は14:40-16:20
以上の予定は諸事情から変更されることがありうる。

■ ■ 授業時間外学修情報
「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

授業中に紹介された図書のほかに関連する参考文献を自分でも検索し、その一部でも読んで学習をより深めること。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び 関連するディプロマポリシー

授業各回のリアクションペーパーや課題、パフォーマンス等(65%)と、期末レポート(35%) に基づいて、「医系の人間学」企画・運営グループの教員全員と授業担当教員とで、間主観的な総合評価を行う。本科目では（一発型）本試験も再試験も行われない。学習の姿勢や資質・適性等に（点数化されないような）問題があるとの所見が寄せられた場合には、「医系の人間学」企画・運営グループの中で慎重な協議が行われ、その結果が評価に反映される。
授業の2/3未満しか出席しなかった場合（リアクションペーパーが提出されなかったときには欠席とみなされる）、期限までに期末レポートを提出しなかった場合、提出物に盗用・剽窃が認められた場合は、成績評価作業の対象からはずれ、単位は認められない。不正行為は決して行わないこと。

- 「リアクションペーパーの書き方」をGULMSにアップロードしてあるので、各自ダウンロードして活用してほしい。教員の目のつけ所は主には以下の5点である。
- 1) 授業内容の要点・教員が伝えたいと考えたことの核心を的確にとらえ(理解し)、まとめている
 - 2) 授業から得た疑問や問題意識が明確に示されている
 - 3) 自身の考えが、妥当で説得力のある論拠とともに明確に示されている
 - 4) （意見交換する時間があれば）そこから学んだことを（自分や相手の見方を相対化しながら）振り返っている
 - 5) 疑問や問題意識に即して自分自身で問い・知・考えを深めようと学習・探究している(ただしネット等からのコピペやパッチワークではない)

リアクションペーパーと期末レポートの採点ポイントのうち主だったものを具体的に例示すると、以下の通りである。
[高得点要素]: ユニークな視点で書かれている 観察力・洞察力に富んでいる 横断的・総合的・建設的・探究的に書かれている 問題を的確に浮き彫りにしている 批判的（自説の源・限界に自覚的）である うけ売りでない 他の異なる立場を顧慮している 反論を予想しこれに応答するかたちで書かれている
[低得点要素]: 視角がかなり狭い 抽象的・図式的にしか考えていない 綺麗事で片付けている 叙述の展開に論理性が不足し飛躍・迷走している 大きな誤解をしている 独断的な言い放しである 授業やトピックから逸れたことが書かれている 記述が短いか内容が薄く乏しい 検索エンジン等で目につき入手が容易な資料に飛びつき（よく吟味することなく）うのみにしている 先に答えありきの（取って付けたような、見せかけの）問いを立てている 自分の頭で考えていない 引用や要約紹介の比重が大きい 尻切れで終わっている 日本語表現・文法が乱れている

■ ■ 受講条件（履修資格）

医学科1年生、医学科2年次編入生

■ ■ メッセージ

このページの下には medizethik@gmail.com が連絡先として掲載されています。科目責任者・服部への連絡はこちらのメールアドレスをお使いください。他の学内の授業担当教員へは各人がメールアドレスをもっていますので、そちらに送信して下さい。

リアクションペーパーや課題と期末レポートの提出先はGULMS内に設置された「医系の人間学」の指定の提出箱である。提出には締切日時が設けられており、定刻を過ぎると機械的に受理されなくなるので注意すること。いくら提出したつもりであってもGULMSに提出物の保存が確認できない場合には未提出扱いとなるので、操作・手続きミスなく受理が完了しているかどうかを自身で確認すること。なお、過去の別の回のリアクションペーパーを誤って提出したことに気づいた場合には締切前であれば再提出して差し替えること。差し替えがなかったときには、誤って提出した回は未提出扱いとする。このような事故を避けるために、ファイル名に日付（数字）を入れるなど、管理に留意が必要である。
盗用・剽窃を行った学生は「群馬大学学生の懲戒等に関する規則」に則り処分や教育的措置が下される。

上にリアクションペーパーやレポートの書き方について粗述したが、とてもよい成書が数多く刊行されているので、自身で手に取り、習得してほしい。また、よく書かれた文献を多く読むことによって、内容だけでなく、書き方をも学ぶことができる（ひと昔前までは、書き方を教えてくれる本など刊行されていなかったので、大学生はすぐれた文献を読むことを通して、書き方を独習したのである）。

■ ■ キーワード

人間 家族 社会 性 想像力 感性 対人関係 身体表現 アクティブ・ラーニング

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

医系の人間学1B

■ ■ 関連授業科目

医の倫理学
学びのリテラシー(1)
医系の国語表現(1) (2)

2022 年度 後期 医学部 医学科			日英区分 :日本語
医系の人間学 1 B			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
MB1004	MB-1-HS112-J		
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
服部 健司 [Hattori Kenji], 森 禎徳 [Mori Yoshinori]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
	1年次 ~ 1年次	3	

授業の目的

この授業では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心に向け、心情を想像する力、人とのコミュニケーションのはかり方、自己表現力、他者のニーズに対して柔軟に対応する仕方を学び、医師になろうとする者に必要な、医学的な知と技術以外の、基本的な素養を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その経験知をふやす。(B4, B5, C3)
さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につける。(C2, C4,D2)
相手のことを知らうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のありようやニーズを推測することができる。相手との間合いのとり方をさぐることができるようになるための基礎を学ぶ。(A5, C5, C6)

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解
- B：論理的・創造的思考力
- C：コミュニケーション能力 ○
- D：社会的倫理観・国際性
- E：自己省察力 ○
- F：知識の獲得と知識を応用する力○
- G：チーム医療の中で協働する力○
- H：基本的な総合診療能力
- I：地域医療の向上に貢献する能力
- J：医学研究を遂行する能力
- K：自己研鑽

授業概要

タイプA～Cの授業が組み合わせられている。
タイプA: トピックごとに厳選された（教科書には載らないような）テキストの講読（2-3コマで完結）を通して、人間知や社会についての知のインプットを図る。
タイプB: ドキュメント番組や教育番組など視聴覚教材を観た後に、学生間で意見交換を行い、これに教員が適宜介入する。同じ映像を視聴しても、学生間で見方や受け止め方は大きく異なる。対話を通して、自分の見方が標準や唯一絶対ではなく、さまざまな視点があるということを繰り返し体験する。供覧する映像教材については、医学・医療とは直接関わりがないものの社会のあり様や人々の人生・生活をよく描いたものから、医学・医療色の強いものまで、幅広く用意される。
タイプC: 学外から専門家と複数のアシスタントを招聘し、インプットと同時にアウトプット（身体表現・活動）に重心をおいた教育を行う。

授業の形式（授業方法）

回ごとに異なる。講義形式のものから、テキストや視聴覚教材をもとに意見交換するもの、身体表現パフォーマンス型の単元まで用意されている。

授業スケジュール

- 10月7日
- 事務・医療企業からみた医師像(1) 田中利樹
- 事務・医療企業からみた医師像(2) 田中利樹
- 10月14日
- 業務フロー・システム思考(1) 久保田裕
- 業務フロー・システム思考(2) 久保田裕
- 10月21日
- ユマニチュード(1) 本田美和子・伊東美緒
- ユマニチュード(2) 本田美和子・伊東美緒
- 10月28日
- インプロ(3) 高尾隆・内海隆雄・野村真之介ほか
- インプロ(4) 高尾隆・内海隆雄・野村真之介ほか
- 11月4日
- インプロ(5) 高尾隆・内海隆雄・野村真之介ほか
- インプロ(6) 高尾隆・内海隆雄・野村真之介ほか
- 11月11日
- エンドオブライフ(1)
- エンドオブライフ(2)
- 11月18日
- エンドオブライフ(3)
- エンドオブライフ(4)
- 11月25日
- エンドオブライフ(5)
- エンドオブライフ(6)
- 12月2日
- エンドオブライフ(3) 島田千穂
- エンドオブライフ(4) 島田千穂
- 12月9日
- エンドオブライフ(5)
- エンドオブライフ(6)
- 12月16日 または 12月23日

セクソロジー(1)
セクソロジー(2)
1月6日
セクソロジー(3) 服部健司
セクソロジー(4) 服部健司
1月13日
セクソロジー(5) 服部健司
セクソロジー(6) 服部健司
1月20日
セクソロジー(7) 加藤力也
セクソロジー(8) 加藤力也
1月27日
セクソロジー(9) 三橋順子
セクソロジー(10)三橋順子

上段は 13:00-14:30 下段は14:40-16:20
以上の予定は諸事情から変更されることがありうる。
詳細な情報はGULMSに掲載するのでリアクションペーパー提出時などに参照してほしい。

■ ■ 授業時間外学修情報
「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

授業中に紹介された図書のほかに関連する参考文献を自分でも検索し、その一部でも読んで学習をより深めること。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

授業各回のリアクションペーパーや課題、パフォーマンス等(65%)と、期末レポート(35%) に基づいて、「医系の人間学」企画・運営グループの教員全員と授業担当教員とで、間主観的な総合評価を行う。本科目では（一発型の）本試験も再試験も行われない。学習の姿勢や資質・適性等に（点数化されないような）問題があるとの所見が寄せられた場合には、「医系の人間学」企画・運営グループの中で慎重な協議が行われ、その結果が評価に反映される。
授業の2/3未滿しか出席しなかった場合（リアクションペーパーが提出されなかったときには欠席とみなされる）、期限までに期末レポートを提出しなかった場合、提出物に盗用・剽窃が認められた場合は、成績評価作業の対象からはずれ、単位は認められない。不正行為は決して行わないこと。

- 「リアクションペーパーの書き方」をGULMSにアップロードしてあるので、各自ダウンロードして活用してほしい。教員の目のつけ所は主には以下の5点である。
- 1) 授業内容の要点・教員が伝えたいと考えたことの核心を的確にとらえ(理解し)、まとめている
 - 2) 授業から得た疑問や問題意識が明確に示されている
 - 3) 自身の考えが、妥当で説得力のある論拠とともに明確に示されている
 - 4) （意見交換する時間があれば）そこから学んだことを（自分や相手の見方を相対化しながら）振り返っている
 - 5) 疑問や問題意識に即して自分自身で問い・知・考えを深めようと学習・探究している(ただしネット等からのコピペやパッチワークではない)

リアクションペーパーと期末レポートの採点ポイントのうち主だったものを具体的に例示すると、以下の通りである。
[高得点要素]: ユニークな視点で書かれている 観察力・洞察力に富んでいる 横断的・総合的・建設的・探究的に書かれている 問題を的確に浮き彫りにしている 批判的（自説の源・限界に自覚的）である うけ売りでない 他の異なる立場を顧慮している 反論を予想しこれに応答するかたちで書かれている
[低得点要素]: 視角がかなり狭い 抽象的・図式的にしか考えていない 綺麗事で片付けている 叙述の展開に論理性が不足し飛躍・迷走している 大きな誤解をしている 独断的な言いつ放しである 授業やトピックから逸れたことが書かれている 記述が短いか内容が薄く乏しい 検索エンジン等で目につき入手が容易な資料に飛びつき（よく吟味することなく）うのみにしている 先に答えありきの（取って付けたような、見せかけの）問いを立てている 自分の頭で考えていない 引用や要約紹介の比重が大きい 尻切れで終わっている 日本語表現・文法が乱れている

■ ■ 受講条件（履修資格）

医学科1年生

■ ■ メッセージ

このページの下には medizethik@gmail.com が連絡先として掲載されています。科目責任者・服部への連絡はこちらのメールアドレスをお使いください。他の学内の授業担当教員へは各人がメールアドレスをもっていますので、そちらに送信して下さい。

リアクションペーパーや課題と期末レポートの提出先はGULMS内に設置された「医系の人間学」の指定の提出箱である。提出には締切日時が設けられており、定刻を過ぎると機械的に受理されなくなるので注意すること。いくら提出したつもりであってもGULMSに提出物の保存が確認できない場合には未提出扱いとなるので、操作・手続きミスなく受理が完了しているかどうかを自身で確認すること。なお、過去の別の回のリアクションペーパーを誤って提出したことに気づいた場合には締切前であれば再提出して差し替えること。差し替えがなかったときには、誤って提出した回は未提出扱いとする。このような事故を避けるために、ファイル名に日付（の数字）を入れるなど、管理に留意が必要である。

盗用・剽窃を行った学生は「群馬大学学生の懲戒等に関する規則」に則り処分や教育的措置が下される。

■ ■ キーワード

人間 家族 社会 性 死 想像力 感性 対人関係 身体表現 アクティブ・ラーニング

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

医の倫理学
医系の国語表現(2)

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

2022 年度 前期 医学部 医学科			日英区分 :日本語
医系の人間学 2 A			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
MB2016	MB-2-HS203-J		
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
服部 健司 [Hattori Kenji], 森 禎徳 [Mori Yoshinori]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
	2年次 ~ 2年次	3	

授業の目的

この授業では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心に向け、心情を想像する力、人とのコミュニケーションのはかり方、自己表現力、他者のニーズに対して柔軟に対応する仕方を学び、医師になろうとする者に必要な、医学的な知と技術以外の、基本的な素養を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その経験知をふやす。(B4, B5, C3)
さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につける。(C2, C4,D2)
相手のことを知らうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のありようやニーズを推測することができる。相手との間合いのとり方をさぐることができるようになるための基礎を学ぶ。(A5, C5, C6)

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解
- B：論理的・創造的思考力
- C：コミュニケーション能力◎
- D：社会的倫理観・国際性
- E：自己省察力 ◎
- F：知識の獲得と知識を応用する力◎
- G：チーム医療の中で協働する力○
- H：基本的な総合診療能力
- I：地域医療の向上に貢献する能力
- J：医学研究を遂行する能力
- K：自己研鑽

授業概要

タイプA～Cの授業が組み合わせられている。
タイプA: トピックごとに厳選された（教科書には載らないような）テキストの講読（2-3コマで完結）を通して、人間知や社会についての知のインプットを図る。
タイプB: ドキュメント番組や教育番組など視聴覚教材を観た後に、学生間で意見交換を行い、これに教員が適宜介入する。同じ映像を視聴しても、学生間で見方や受け止め方は大きく異なる。対話を通して、自分の見方が標準や唯一絶対ではなく、さまざまな視点があるということを繰り返し体験する。供覧する映像教材については、医学・医療とは直接関わりがないものの社会のあり様や人々の人生・生活をよく描いたものから、医学・医療色の強いものまで、幅広く用意される。
タイプC: 学外から専門家と複数のアシスタントを招聘し、インプットと同時にアウトプット（身体表現・活動）に重心をおいた教育を行う。

授業の形式（授業方法）

回ごとに異なる。講義形式のものから、テキストや視聴覚教材をもとに意見交換するもの、身体表現パフォーマンス型の単元まで用意されている。

授業スケジュール

各日とも13.00-16.10 である。諸事情により予定が変更されることがある。
詳細はGULMSに掲載されるのでリアクションペーパー提出時などに参照してほしい。

4月8日
ドキュメンタリーから学ぶ 1
4月15日
ドラマで考える 1
4月22日
クリニカル・シアター A 徳永・服部・藍澤・内田・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田
5月6日
ドキュメンタリーから学ぶ 2
5月13日
ドラマで考える 2
5月20日
ドキュメンタリーから学ぶ 3
5月27日
クリニカル・シアター B 原・尾池・服部・藍澤・内田・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸
6月3日
ユマニチュード 伊東美緒
6月10日
ドラマで考える 3
6月17日
ドキュメンタリーから学ぶ 4
6月24日
クリニカル・シアター C 服部・藍澤・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田
7月1日
ドキュメンタリーから学ぶ 5 小坂橋・森
7月8日
ドラマで考える 4 小坂橋・森
7月15日
クリニカル・シアター D 原・服部・藍澤・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田

7月22日
ドキュメンタリーから学ぶ 5

■ ■ 授業時間外学修情報
「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

授業中に紹介された図書のほかに関連する参考文献を自分でも検索し、その一部でも読んで学習をより深めること。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

授業各回のリアクションペーパーや課題、パフォーマンス等(65%)と、期末レポート(35%) に基づいて、「医系の人間学」企画・運営グループの教員8名と授業担当教員とで、間主観的な総合評価を行う。本科目では（一発型の）本試験も再試験も行われない。学習の姿勢や資質・適性等に（点数化されないような）問題があるとの所見が寄せられた場合には、「医系の人間学」企画・運営グループの中で慎重な協議が行われ、その結果が評価に反映される。
授業の2/3未満しか出席しなかった場合（リアクションペーパーが提出されなかったときには欠席とみなされる）、期限までに期末レポートを提出しなかった場合、提出物に盗用・剽窃が認められた場合は、成績評価作業の対象からはずれ、単位は認められない。不正行為は決して行わないこと。

- 「リアクションペーパーの書き方」をGULMSにアップロードしてあるので、各自ダウンロードして活用してほしい。教員の目のつけ所は主には以下の5点である。
- 1) 授業内容の要点・教員が伝えたいと考えたことの核心を的確にとらえ(理解し)、まとめている
 - 2) 授業から得た疑問や問題意識が明確に示されている
 - 3) 自身の考えが、妥当で説得力のある論拠とともに明確に示されている
 - 4) （意見交換する時間があれば）そこから学んだことを（自分や相手の見方を相対化しながら）振り返っている
 - 5) 疑問や問題意識に即して自分自身で問い・知・考えを深めようと学習・探究している(ただしネット等からのコピペやパッチワークではない)

リアクションペーパーと期末レポートの採点ポイントのうち主だったものを具体的に例示すると、以下の通りである。
[高得点要素]: ユニークな視点で書かれている 観察力・洞察力に富んでいる 横断的・総合的・建設的・探究的に書かれている 問題を的確に浮き彫りにしている 批判的（自説の源・限界に自覚的）である うけ売りでない 他の異なる立場を顧慮している 反論を予想しこれに応答するかたちで書かれている
[低得点要素]: 視角がかなり狭い 抽象的・図式的にしか考えていない 綺麗事で片付けている 叙述の展開に論理性が不足し飛躍・迷走している 大きな誤解をしている 独断的な言いつ放しである 授業やトピックから逸れたことが書かれている 記述が短いか内容が薄く乏しい 検索エンジン等で目につき入手が容易な資料に飛びつき（よく吟味することなく）うのみにしている 先に答えありきの（取って付けたような、見せかけの）問いを立てている 自分の頭で考えていない 引用や要約紹介の比重が大きい 尻切れで終わっている 日本語表現・文法が乱れている

■ ■ 受講条件（履修資格）

医学科2年生

■ ■ メッセージ

このページの下には medizethik@gmail.com が連絡先として掲載されています。科目責任者・服部への連絡はこちらのメールアドレスをお使いください。他の学内の授業担当教員へは各人がメールアドレスをもっていますので、そちらに送信して下さい。

リアクションペーパーや課題と期末レポートの提出先はGULMS内に設置された「医系の人間学」の指定の提出箱である。提出には締切日時が設けられており、定刻を過ぎると機械的に受理されなくなるので注意すること。いくら提出したつもりであってもGULMSに提出物の保存が確認できない場合には未提出扱いとなるので、操作・手続きミスなく受理が完了しているかどうかを自身で確認すること。なお、過去の別の回のリアクションペーパーを誤って提出したことに気づいた場合には締切前であれば再提出して差し替えること。差し替えがなかったときには、誤って提出した回は未提出扱いとする。このような事故を避けるために、ファイル名に日付（の数字）を入れるなど、管理に留意が必要である。

盗用・剽窃を行った学生は「群馬大学学生の懲戒等に関する規則」に則り処分や教育的措置が下される。

■ ■ キーワード

人間 家族 社会 性・生殖 死 想像力 感性 対人関係 身体表現 アブライド・ドラマ アクティブ・ラーニング

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4641>

■ ■ 授業言語

2022 年度 後期 医学部 医学科			日英区分 : 日本語
医系の人間学 2 B			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
MB2017	MB-2-HS204-J		
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
服部 健司 [Hattori Kenji], 森 禎徳 [Mori Yoshinori]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
	2年次 ~ 2年次	3	

■ ■ 授業の目的

この授業では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心を向け、心情を想像する力、人とのコミュニケーションのはかり方、自己表現力、他者のニーズに対して柔軟に対応する仕方を学び、医師になろうとする者に必要な、医学的な知と技術以外の、基本的な素養を身につけることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その経験知をふやす。(B4, B5, C3)
さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につける。(C2, C4,D2)
相手のことを知ろうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のありようやニーズを推測することができる。相手との間合いのとり方をさぐることができるようになるための基礎を学ぶ。(A5, C5, C6)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解
- B：論理的・創造的思考力
- C：コミュニケーション能力○
- D：社会的倫理観・国際性
- E：自己省察力 ○
- F：知識の獲得と知識を応用する力○
- G：チーム医療の中で協働する力○
- H：基本的な総合診療能力
- I：地域医療の向上に貢献する能力
- J：医学研究を遂行する能力
- K：自己研鑽

■ ■ 授業概要

タイプA～Cの授業が組み合わせられている。
タイプA: トピックごとに厳選された（教科書には載らないような）テキストの講読（2-3コマで完結）を通して、人間知や社会についての知のインプットを図る。
タイプB: ドキュメント番組や教育番組など視聴覚教材を観た後に、学生間で意見交換を行い、これに教員が適宜介入する。同じ映像を視聴しても、学生間で見方や受け止め方は大きく異なる。対話を通して、自分の見方が標準や唯一絶対ではなく、さまざまな視点があるということを繰り返し体験する。供覧する映像教材については、医学・医療とは直接関わりがないものの社会のあり様や人々の人生・生活をよく描いたものから、医学・医療色の強いものまで、幅広く用意される。
タイプC: 学外から専門家と複数のアシスタントを招聘し、インプットと同時にアウトプット（身体表現・活動）に重心をおいた教育を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

回ごとに異なる。講義形式のものから、テキストや視聴覚教材をもとに意見交換するもの、身体表現パフォーマンス型の単元まで用意されている。

■ ■ 授業スケジュール

各日とも13.00-16.10 である。諸事情により予定が変更されることがある。詳細な情報はGULMSに掲載するので参照してほしい。

- 10月7日
メディアコミュニケーション 久保田裕
- 10月14日
医療メディエーション 荒神裕之
- 10月21日
ドキュメンタリーから学ぶ
- 10月28日
EBMと患者中心志向を考える 小松康宏
- 11月4日
ドキュメンタリーから学ぶ
- 11月11日
クリニカル・シアター E 服部
- 11月18日
インプロ 高尾隆・内海隆雄・野村真之介ほか
- 11月25日
インプロ 高尾隆・内海隆雄・野村真之介ほか
- 12月2日
コンフリクト・交渉 田中利樹
- 12月9日
ドラマで考える
- 12月16日
クリニカル・シアター F 服部
- 12月23日
ドキュメンタリーから学ぶ
- 1月6日
ドラマで考える
- 1月13日
ドキュメンタリーから学ぶ
- 1月20日

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

授業中に紹介された図書のほかに関連する参考文献を自分でも検索し、その一部でも読んで学習をより深めること。

■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

各回ごとのリアクション・ペーパーや課題、パフォーマンス等(65%)と、期末レポート(35%)に基づいて、「医系の人間学」企画・運営グループの教員8名と授業担当教員とで、間主観的な総合評価を行う。本科目では一発型の本試験も再試験も行わない。

- 「リアクションペーパーの書き方」をGULMSにアップロードしてあるので、各自ダウンロードして活用してほしい。
- 1) 授業内容の要点・教員が伝えたいと考えたことの核心を的確にとらえ(理解し)、まとめている
 - 2) 授業から得た疑問や問題意識が明確に示されている
 - 3) 自身の考えが、妥当で説得力のある論拠とともに明確に示されている
 - 4) (意見交換する時間があれば) そこから学んだことを (自分や相手の見方を相対化しながら) 振り返っている
 - 5) 疑問や問題意識に即して自分自身で問い・知・考えを深めようと学習・探究している(ただしネット上の情報のコピペではない)
- という諸要件に着目しながらリアクションペーパーの評価を行う。

リアクション・ペーパーと期末レポートの採点ポイントを具体的に例示すると、以下の通りである。

高得点要素： ユニークな視点で書かれている 観察力・洞察力に富んでいる 横断的・総合的・建設的・探究的に書かれている 問題を的確に浮き彫りにしている 批判的（自説の源・限界に自覚的）である うけ売りでない 他の立場を顧慮している 反論を予想しこれに応答するかたちで書かれている

低得点要素： 視角がかなり狭い 抽象的・図式的にしか考えていない 叙述の展開に論理性が不足し飛躍・迷走している 大きな誤解をしている 独断的な言いつ放しである 授業やトピックから逸れたことが書かれている 記述が短いか内容が薄く乏しい

盗用・剽窃を行った場合、期限までに期末レポートを提出しなかった場合、規定の出席日数に満たなかった場合は、単位は認められない。盗用・剽窃が疑われた場合には厚生補導委員会等による面談が行われ、「群馬大学学生の懲戒等に関する規則」に則り、処分が下されるので留意してほしい。

■ 受講条件（履修資格）

医学科2年生

■ メッセージ

このページの下には medizethik@gmail.com が連絡先として掲載されています。科目責任者・服部への連絡はこちらのメールアドレスをお使いください。他の学内の授業担当教員へは各人がメールアドレスをもちますので、そちらに送信して下さい。

「医系の人間学」のリアクション・ペーパーの送信先は、基本的にはGULMS「専門教育 医学科2年生」内「医系の人間学」の各日ごとのリアクションペーパー箱ですので、間違えないように注意してください。提出の締切が設定されています。指定時刻を過ぎると箱の蓋が機械的に閉じて投函できなくなります。ご注意ください。担当教員によっては、提出先が異なることがありますので、授業中によく聞いておいて下さい。

■ キーワード

人間 家族 社会 障害 想像力 感性 対人関係 身体表現 アブライド・ドラマ アクティブ・ラーニング

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

医系の人間学 3A 3B 3C

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4642>

■ 授業言語

2022 年度 前期 医学部 医学科			日英区分 : 日本語
チーム医療実習			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
MB2001	MB-2-CT218-J		
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
和田 直樹 [Naoki Wada], 鎌田 英男 [Kamada Hideo], 喜名 振一郎 [Shinichiroh Kina]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
	2年次 ~ 2年次	2	

■ ■ 授業の目的

医療は、医師だけでなく、看護師、臨床検査技師、療法士、医療事務職などの様々な職種のスタッフにより支えられている。本実習では、1年次の医学医療概論（病棟実習）から一歩踏み出し、各施設における看護・介護行為等を指導者の指示に従いつつ、主体的かつ能動的に実践する。コミュニケーション能力やチーム医療の中で協働する力の基礎を学び、保健・医療・福祉・介護に係る制度を理解することを目指す。

実習前講義をすべて受講した者だけが、施設実習を行います。

■ ■ 授業の到達目標

- 医療現場の息吹を学び、医師としてあるべき姿勢を学ぶ。
- 1．礼節（挨拶、服装、態度、言葉遣い、時間厳守等）をわかまえる（C 1）
 - 2．医療スタッフ、患者さんに接する際の心遣いを知る（A 5）
 - 3．体験を重ねることにより状況に応じた自主性を発揮できる（A 1）
 - 4．指導者や学生間及び他の医療従事者と円滑な意思疎通と、信頼関係の構築に努めることができる（C 2）
 - 5．入所者・利用者の生活や心理に対する理解を深める（D 2）
 - 6．入所者・利用者の個別のニーズを汲み、わかりやすい言葉を用いて説明することができる（C 5）
 - 7．入所者・利用者やスタッフとの日々の対話を通して、相互理解を深めるよう努めることができる（D 2）
 - 8．入所者・利用者の安全を最優先した行動を心がける（E 1 3）
 - 9．医学生としての自覚を身につける（H 2）
 - 10．老人保健施設を含めた実習施設を通して、地域医療の現状を理解する（F 1）

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解
B：論理的・創造的思考力△
C：コミュニケーション能力◎
D：社会的倫理観・国際性◎
E：自己省察力 ◎
F：知識の獲得と知識を応用する力
G：チーム医療の中で協働する力◎
H：基本的な総合診療能力○
I：地域医療の向上に貢献する能力○
J：医学研究を遂行する能力
K：自己研鑽◎

■ ■ 授業概要

地域包括ケアを含め現在の福祉と介護のチーム連携を演習と講義で学び、介護老人保健施設、介護老人福祉施設等で臨地実習（本年は代替実習の予定）を行います。、演習は各班（6-8名）毎に分かれて課題に取り組み、意見交換を行う（予定）。

実習前講義をすべて受講した者だけが、施設実習を行います。講義後レポート課題と実習での目標設定を行います。

認知サポーター研修も含まれます。研修修了後に修了カードを配布します。

* 1：認知症サポーター研修。厚労省HP（<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000089508.html>）、前橋市HP（<http://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi/42/104/105/p002004.html>）参照。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

実習前集中講義（講義と演習）。令和4年度は臨地実習ではなく代替実習で行う予定です（代替実習内容は決定次第おしらせします）。認知症サポーター研修のみ、医学部の複数の教室で行い、ほかの授業はオンラインで実施します。演習は各班（6-8名）毎に分かれて課題に取り組み、意見交換を行う。講義・実習時期は施設との調整で今後変更になる可能性があります。

2022年8月29日（月）から9月16日（金）

8月29日（月）から9月2日（金）：実習前講義

9月5日（月）から9月16日（金）：実習（代替実習の予定）

10月 実習報告会（未定。決定次第連絡します）

■ ■ 授業スケジュール

講義内容に関しては、変更する場合があるので適宜Moodle にて確認のこと。

8月29日(月)
8:50-12 : 00
老人保健施設・制度について（医療法人大誠会 田中志子）
13:00-16:30
医療のコミュニケーションと信頼（マイインフォームドコンセント 佐伯晴子）
8月30日(火)
8:50-10:20
介護施設等におけるハラスメント等への対応（NPO法人じゃんけんぽん 佐藤文美）
10:30- 12:00
仮）臨地実習に当たっての注意点 実習目標設定・質問作成②
13:00- 16:10
オリエンテーション 実習の概要説明 現場での実習に臨むにあたって 身だしなみ、行動（和田直樹）
仮）介護老人保健施設における目標設定・質問作成①
8月31日(水)
8:50-10:20
接遇研修（看護部）

10:30-12:00
群馬大学の多職種連携教育の取り組み（保健学科 篠崎博光）
13:00-14:30
施設における高齢者介護（看護）の実践（保健学研究科 内田陽子）
14:40-16:10
高齢者や認知症をもつ人へのコミュニケーション(保健学研究科 伊東美緒)
9月1日(木) 10:00-12:00
認知症サポーター研修（基礎大講堂、基礎中講堂）（対面）（前橋市長寿包括ケア課 荒木様他）
本サポーター研修は遅刻、早退すると研修修了と認められません。
13:00-16:30
自習
9月2日(金)
8:50-12:00
医療安全 （医療の質と安全学 小松康宏）
13:00-14:30
仮）実習協力施設の紹介
14:30-16:10
地域包括ケアと老健（群馬県老人保健施設協会理事長 服部徳昭）

9月5日（月） 第6回 施設実習 別途お知らせします。Moodle にて確認のこと。
9月6日（火） 第7回 施設実習
9月7日（水） 第8回 施設実習
9月8日（木） 第9回 施設実習
9月9日（金） 第10回 施設実習
9月12日（月） 第11回 施設実習
9月13日（火） 第12回 施設実習
9月14日（水） 第13回 施設実習
9月15日（木） 第14回 施設実習
9月16日（金） 第15回 施設実習

■ ■ 授業時間外学修情報
「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

事前に配布した講義の予定表の課題に対して事前学習を行い講義に臨むこと。講義前に事前学習を各授業につき1時間、講義後には課題について学んだことを1時間復習し疑問点は解決して理解しておくこと。実習前には、医療施設での行動、コミュニケーション、患者・入所者の安全についてよく学び理解した上で実習に臨むこと。
実習前講義を受講した後、実習を行う。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び 関連するディプロマポリシー

以下の項目を評価・集計したうえで、GPAに基づいて成績とします。
評価項目：対応する到達目標：配点比率（%）
① 提出課題・レポート：到達目標 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10：100%

■ ■ 受講条件（履修資格）

医学科2年生、編入学2年生

■ ■ メッセージ

「多様なニーズに対応できる医師」として、医療制度、医療安全、チーム医療、地域包括ケアシステム、健康長寿社会などのニーズに対応できるべく介護老人健康保健施設、介護老人健康福祉施設等で臨地実習を行います。挨拶を心掛け、入所者さん、利用者さんの安全に配慮して学びましょう。
実習前講義を受講した者に実習参加を認めます。認知症サポーター研修は、遅刻、早退すると研修修了とならないので注意してください。

■ ■ キーワード

チーム医療、医療の現場におけるコミュニケーション能力、地域医療、地域包括ケアシステム、多職種連携、早期体験実習、患者安全

■ ■ この授業の基礎となる科目

医系の人間学1A、1B。

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

2022 年度 前期 医学部 医学科			日英区分 : 日本語
公衆衛生学			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
MB3011	MB-2-LC311-J		
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
浜崎 景 [Hamazaki, Kei], 内田 満夫 [Mitsuo Uchida], 山崎 千穂（助教） [Yamazaki Chiho]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
	3年次 ～ 3年次	2	

■ ■ 授業の目的

健康を維持・増進するには、個人の努力のみならず社会（コミュニティ）としての取り組み、すなわち公衆衛生が必要である。公衆衛生には、さまざまな保健活動、医療制度、医育システムなどがあるが、このような多岐にわたる分野を体系的に学習し、総合的に理解・考察することを授業の目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

1. 公衆衛生の意義・重要性を認識・理解することができる。（H1,4）
2. 保健活動、医療制度、福祉などについて理解することができる。（F1,3,4）
3. 集団の健康を守ることについて考えることができる。（F1,3,4 H1,4）

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

医学科のディプロマポリシーの、2, 3と関連している。

-
- | | |
|--------------------|---|
| A：諸科学についての基礎的知識と理解 | ○ |
| B：論理的・創造的思考力 | ○ |
| C：コミュニケーション能力 | ○ |
| D：社会的倫理観・国際性 | ◎ |
| E：自己省察力 | △ |
| F：知識の獲得と知識を応用する力 | ○ |
| G：チーム医療の中で協働する力 | － |
| H：基本的な総合診療能力 | － |
| I：地域医療の向上に貢献する能力 | ◎ |
| J：医学研究を遂行する能力 | △ |
| K：自己研鑽 | ○ |

■ ■ 授業概要

公衆衛生学の定義、疾病予防対策や地域保健などの公衆衛生の実際の応用例について講義し、また、地域保健関連施設の施設などを調べるグループワーク実習で議論をおこない、課題について発表してもらう。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義および、グループ学習・発表会がある。

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	4月11日（月） 1 浜崎 景：公衆衛生学概論・健康定義 / 2 内田満夫：保健統計・疾病統計 なお、COVID-19の影響で講師の時間や順番が変わる可能性があるため、最新版をMoodleで掲示するのでよく確認しておくこと。
第2回	4月18日（月） 3 浜崎 景：予防医学・疫学 / 4 内田満夫：社会保障・高齢者保健 / 5 茂木文孝：がん登録事業
第3回	5月9日（月） 6 亀尾聡美：生活習慣とリスク / 7 内田満夫：産業保健 / 8 瀧上知恵子：産業医
第4回	5月16日（月） 9 山崎千穂：母子保健 / 10 山崎千穂：学校保健 / 11 岩崎 基：がん対策
第5回	5月23日（月） 12 井上顕：精神保健 / 13 高山義浩：地域医療と感染症 / 14 小山 洋：国際保健
第6回	5月30日（月） 15 武智浩之：保健所業務
第7回	6月6日（月） 午前・午後 グループワーク
第8回	6月13日（月） 午前・午後 グループワーク
第9回	6月20日（月） 午後 学外実習発表会（各班10分発表＋5分討論）地域保健実習（レポート）説明
第10回	6月27日（月） 午前 期末試験（公衆衛生学）

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

事前に配布する資料について各自で学習を行い、十分な準備をした上で講義に臨むこと

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び 関連するディプロマポリシー

グループ学習での評価、グループ・テーマについてのレポートおよび講義終了後の試験で評価する。

■ ■ 受講条件（履修資格）

医学科3年生

■ ■ メッセージ

3年次においては、知識の獲得というより公衆衛生的な考え方（公衆衛生マインド）を身に付けてほしい。

講義の時間割は、教員や非常勤講師の都合で入れ替わる場合があります。各自予定をよく確認しておいてください。

■ ■ キーワード

健康、公衆衛生、予防医学、地域保健関連施設

■ ■ この授業の基礎となる科目

高校での「公民科」

■ ■ 次に履修が望まれる科目

公衆衛生的な考え方（公衆衛生マインド）を理解した上で、臨床各科を履修していただきたい。

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

教科書1	ISBN	9784524231560					
	書名	シンプル衛生公衆衛生学2022					
	著者名	鈴木庄亮	出版社	南江堂	出版年	2022	
	備考						

■ ■ 参考書

参考書1	ISBN						
	書名	図説国民衛生の動向					
	著者名	厚生労働統計協会／編集,厚生労働統計協会,厚生労働統計協会,	出版社	厚生労働統計協会	出版年	2022	
	備考						

参考書2	ISBN						
	書名	国民衛生の動向					
	著者名	厚生労働統計協会／編集,厚生労働統計協会,厚生労働統計協会,	出版社	厚生労働統計協会	出版年	2022	
	備考						

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4658>

■ ■ 授業言語

2022 年度 前期 医学部 医学科			日英区分 :日本語
医系の人間学 3 A			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
MB3001	MB-3-HS301-J		
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
服部 健司 [Hattori Kenji], 森 禎徳 [Mori Yoshinori]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
	3年次 ～ 3年次	2	

授業の目的

この授業では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心に向け、心情を想像する力、人とのコミュニケーションのはかり方、自己表現力、他者のニーズに対して柔軟に対応する仕方を学び、医師になろうとする者に必要な、医学的な知と技術以外の、基本的な素養を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その経験知をふやす。(B4, B5, C3)
さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につける。(C2, C4,D2)
相手のことを知ろうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のありようやニーズを推測することができる。相手との間合いのとり方をさぐることができるようになるための基礎を学ぶ。(A5, C5, C6)

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解
- B：論理的・創造的思考力
- C：コミュニケーション能力○
- D：社会的倫理観・国際性
- E：自己省察力 ○
- F：知識の獲得と知識を応用する力○
- G：チーム医療の中で協働する力○
- H：基本的な総合診療能力
- I：地域医療の向上に貢献する能力
- J：医学研究を遂行する能力
- K：自己研鑽

授業概要

タイプA～Cの授業が組み合わされている。
タイプA: トピックごとに厳選された（教科書には載らないような）テキストの講読（2-3コマで完結）を通して、人間知や社会についての知のインプットを図る。
タイプB: ドキュメント番組や教育番組など視聴覚教材を観た後に、学生間で意見交換を行い、これに教員が適宜介入する。同じ映像を視聴しても、学生間で見方や受け止め方は大きく異なる。対話を通して、自分の見方が標準や唯一絶対ではなく、さまざまな視点があるということを繰り返し体験する。供覧する映像教材については、医学・医療とは直接関わりがないものの社会のあり様や人々の人生・生活をよく描いたものから、医学・医療色の強いものまで、幅広く用意される。
タイプC: 学外から専門家と複数のアシスタントを招聘し、インプットと同時にアウトプット（身体表現・活動）に重心をおいた教育を行う。

授業の形式（授業方法）

回ごとに異なる。講義形式のものから、テキストや視聴覚教材をもとに意見交換するもの、身体表現パフォーマンス型の単元まで用意されている。

授業スケジュール

各日とも13.00-16.20 である。諸事情により予定が変更されることがある。
詳細はGULMSに掲載されるのでリアクションペーパー提出時などに参照してほしい。

4月12日
ドキュメンタリーから学ぶ 1
4月19日
クリニカル・シアター 1 原・服部・藍澤・内田・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田
4月26日
クリニカル・エチュード 1 原・服部・藍澤・内田・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・内海・大塚
5月10日
ドキュメンタリーから学ぶ 2
5月17日
クリニカル・シアター 2 原・服部・藍澤・内田・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田
5月24日
ドキュメンタリーから学ぶ 3
5月31日
クリニカル・エチュード 2 原・徳永・服部・藍澤・内田・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・郡司・野村・堀
6月7日
ドキュメンタリーから学ぶ 4
6月14日
クリニカル・シアター 3 原・服部・藍澤・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田
6月21日
ドキュメンタリーから学ぶ 5
6月28日
クリニカル・エチュード 3 服部・藍澤・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田・郡司・直井・堀
7月5日
ユマニチュード 伊東美緒

授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

学則変更の趣旨 - 60

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

授業中に紹介された図書のほかに関連する参考文献を自分でも検索し、その一部でも読んで学習をより深めること。

成績評価基準（授業評価方法）及び 関連するディプロマポリシー

クリニカル・シアターならびにエチュードのパフォーマンス・取組み・リアクションペーパー(50%)と、それ以外の授業のリアクションペーパーや課題レポート等(50%)と、に基づいて、「医系の人間学」企画・運営グループの教員と授業担当教員とで、間主観的な総合評価を行う。本科目では（一発型の）本試験も再試験も行われない。学習の姿勢や資質・適性等に（点数化されないような）問題があるとの所見が寄せられた場合には、「医系の人間学」企画・運営グループの中で慎重な協議が行われ、その結果が評価に反映される。
授業の2/3未満しか出席しなかった場合（リアクションペーパーが提出されなかったときには欠席とみなされる）、期限までに期末レポートを提出しなかった場合、提出物に盗用・剽窃が認められた場合は、成績評価作業の対象からはずれ、単位は認められない。不正行為は決して行わないこと。

「リアクションペーパーの書き方」をGULMSにアップロードしてあるので、各自ダウンロードして活用してほしい。教員の目のつけ所は主には以下の5点である。

- 1) 授業内容の要点・教員が伝えたいと考えたことの核心を的確にとらえ(理解し)、まとめている
- 2) 授業から得た疑問や問題意識が明確に示されている
- 3) 自身の考えが、妥当で説得力のある論拠とともに明確に示されている
- 4) （意見交換する時間があれば）そこから学んだことを（自分や相手の見方を相対化しながら）振り返っている
- 5) 疑問や問題意識に即して自分自身で問い・知・考えを深めようと学習・探究している(ただしネット等からのコピペやパッチワークではない)

リアクションペーパーの採点ポイントのうち主だったものを具体的に例示すると、以下の通りである。
[高得点要素]: ユニークな視点で書かれている 観察力・洞察力に富んでいる 横断的・総合的・建設的に書かれている 問題を的確に浮き彫りにしている 批判的（自説の源・限界に自覚的）である うけ売りでない 他の異なる立場を顧慮している 反論を予想しこれに応答するかたちで書かれている
[低得点要素]: 視角がかなり狭い 抽象的・図式的にしか考えていない 綺麗事で片付けている 叙述の展開に論理性が不足し飛躍・迷走している 大きな誤解をしている 独断的な言いつ放しである 授業やトピックから逸れたことが書かれている 記述が短いか内容が薄く乏しい 検索エンジン等で目につき入手が容易な資料に飛びつき（よく吟味することなく）うのみにしている 先に答えありきの（取って付けたような、見せかけの）問いを立てている 自分の頭で考えていない 引用や要約紹介の比重が大きい 尻切れで終わっている 日本語表現・文法が乱れている

クリニカル・エチュードの評価ポイントはGULMSにアップする。

受講条件（履修資格）

医学科3年生

メッセージ

このページの下には medizethik@gmail.com が連絡先として掲載されています。科目責任者・服部への連絡はこちらのメールアドレスをお使いください。他の学内の授業担当教員へは各人がメールアドレスをもちますので、そちらに送信して下さい。

リアクションペーパーや課題と期末レポートの提出先はGULMS内に設置された「医系の人間学」の指定の提出箱である。提出には締切日時が設けられており、定刻を過ぎると機械的に受理されなくなるので注意すること。いくら提出したつもりであってもGULMSに提出物の保存が確認できない場合には未提出扱いとなるので、操作・手続きミスなく受理が完了しているかどうかを自身で確認すること。なお、過去の別の回のリアクションペーパーを誤って提出したこと気づいた場合には締切前であれば再提出して差し替えること。差し替えがなかったときには、誤って提出した回は未提出扱いとする。このような事故を避けるために、ファイル名に日付（の数字）を入れるなど、管理に留意が必要である。

盗用・剽窃を行った学生は「群馬大学学生の懲戒等に関する規則」に則り処分や教育的措置が下される。

キーワード

人間 家族 社会 性・生殖 死 想像力 感性 対人関係 身体表現 アブライド・ドラマ アクティブ・ラーニング

この授業の基礎となる科目

次に履修が望まれる科目

関連授業科目

医の倫理学
医系の国語表現(2)

教科書

参考書

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4648>

授業言語

2022 年度 後期 医学部 医学科			日英区分 :日本語
医系の人間学 3 B			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
MB3002	MB-3-HS302-J		
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
服部 健司 [Hattori Kenji], 森 禎徳 [Mori Yoshinori]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
	3年次 ～ 3年次	1	

授業の目的

この授業では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心に向け、心情を想像する力、人とのコミュニケーションのはかり方、自己表現力、他者のニーズに対して柔軟に対応する仕方を学び、医師になろうとする者に必要な、医学的な知と技術以外の、基本的な素養を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その経験知をふやす。(B4, B5, C3)
さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につける。(C2, C4,D2)
相手のことを知らうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のありようやニーズを推測することができる。相手との間合いのとり方をさぐることができるようになるための基礎を学ぶ。(A5, C5, C6)

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解
- B：論理的・創造的思考力
- C：コミュニケーション能力◎
- D：社会的倫理観・国際性
- E：自己省察力 ◎
- F：知識の獲得と知識を応用する力◎
- G：チーム医療の中で協働する力○
- H：基本的な総合診療能力
- I：地域医療の向上に貢献する能力
- J：医学研究を遂行する能力
- K：自己研鑽

授業概要

タイプA・Cの授業が組み合わせられている。
タイプA: 講義を通して、人間知や社会についての知のインプットを図る。
タイプC: 学外から専門家と複数のアシスタントを招聘し、インプットと同時にアウトプット（身体表現・活動）に重心をおいた教育を行う。

授業の形式（授業方法）

回ごとに異なる。講義形式のものから、身体表現パフォーマンス型の単元まで用意されている。

授業スケジュール

各日とも13.00-16.20 である。諸事情により予定が変更されることがある。
詳細はGULMSに掲載されるのでリアクションペーパー提出時などに参照してほしい。

- 10月5日
- 心理的安全性 小松 康宏
- 10月12日
- クリニカル・シアター 4 服部・小板橋・藍澤・内田・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田
- 10月19日
- インプロ 高尾隆・内海隆雄・野村真之介ほか
- 10月26日
- インプロ 高尾隆・内海隆雄・野村真之介ほか
- 11月2日
- クリニカル・エチュード 4 服部・岸・藍澤・内田・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田
- 11月9日
- システム思考・学習する組織 小松康宏
- 11月16日
- クリニカル・シアター 5 原・小板橋・服部・藍澤・内田・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田
- 11月30日
- クリニカル・エチュード 5 原・服部・藍澤・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田

授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0 時間

授業中に紹介された図書のほかに関連する参考文献を自分でも検索し、その一部でも読んで学習をより深めること。

成績評価基準（授業評価方法）及び 関連するディプロマポリシー

授業各回のリアクションペーパーや課題レポート等(75%)と、クリニカル・エチュードのパフォーマンス・取組み(25%)に基づいて、「医系の人間学」企画・運営グループの教員と授業担当教員とで、間主観的な総合評価を行う。本科目では（一発型の）本試験も再試験も行われない。学習の姿勢や資質・適性等に（点数化されないような）問題があるとの所見が寄せられた場合には、「医系の人間学」企画・運営グループの中で慎重な協議が行われ、その結果が評価に反映される。
授業の2/3未満しか出席しなかった場合（リアクションペーパーが提出されなかったときには欠席とみなされる）、期限までに期末レポートを提出しなかった場合、提出物に盗用・剽窃が認められた場

合は、成績評価作業の対象からはずれ、単位は認められない。不正行為は決して行わないこと。

- 「リアクションペーパーの書き方」をGULMSにアップロードしてあるので、各自ダウンロードして活用してほしい。教員の目のつけ所は主には以下の5点である。
- 1) 授業内容の要点・教員が伝えたいと考えたことの核心を的確にとらえ(理解し)、まとめている
 - 2) 授業から得た疑問や問題意識が明確に示されている
 - 3) 自身の考えが、妥当で説得力のある論拠とともに明確に示されている
 - 4) (意見交換する時間があれば)そこから学んだことを(自分や相手の見方を相対化しながら)振り返っている
 - 5) 疑問や問題意識に即して自分自身で問い・知・考えを深めようと学習・探究している(ただしネット等からのコピペやパッチワークではない)

リアクションペーパーの採点ポイントのうち主だったものを具体的に例示すると、以下の通りである。

[高得点要素]: ユニークな視点で書かれている 観察力・洞察力に富んでいる 横断的・総合的・建設的・探究的に書かれている 問題を的確に浮き彫りにしている 批判的(自説の源・限界に自覚的)である うけ売りでない 他の異なる立場を顧慮している 反論を予想しこれに応答するかたちで書かれている

[低得点要素]: 視角がかなり狭い 抽象的・図式的にしか考えていない 綺麗事で片付けている 叙述の展開に論理性が不足し飛躍・迷走している 大きな誤解をしている 独断的な言いつ放しである 授業やトピックから逸れたことが書かれている 記述が短いか内容が薄く乏しい 検索エンジン等で目につき入手が容易な資料に飛びつき(よく吟味することなく)うのみにしている 先に答えありきの(取って付けたような、見せかけの)問いを立てている 自分の頭で考えていない 引用や要約紹介の比重が大きい 尻切れで終わっている 日本語表現・文法が乱れている

クリニカル・エチュードの評価ポイントはGULMSにアップする。

■ ■ 受講条件(履修資格)

医学科3年生

■ ■ メッセージ

このページの下には medizethik@gmail.com が連絡先として掲載されています。科目責任者・服部への連絡はこちらのメールアドレスをお使いください。他の学内の授業担当教員へは各人がメールアドレスをもっていますので、そちらに送信して下さい。

リアクションペーパーや課題と期末レポートの提出先はGULMS内に設置された「医系の人間学」の指定の提出箱である。提出には締切日時が設けられており、定刻を過ぎると機械的に受理されなくなるので注意すること。いくら提出したつもりであってもGULMSに提出物の保存が確認できない場合には未提出扱いとなるので、操作・手続きミスなく受理が完了しているかどうかを自身で確認すること。なお、過去の別の回のリアクションペーパーを誤って提出したこと気づいた場合には締切前であれば再提出して差し替えること。差し替えがなかったときには、誤って提出した回は未提出扱いとする。このような事故を避けるために、ファイル名に日付(の数字)を入れるなど、管理に留意が必要である。

盗用・剽窃を行った学生は「群馬大学学生の懲戒等に関する規則」に則り処分や教育的措置が下される。

■ ■ キーワード

人間 家族 社会 性・生殖 死 想像力 感性 対人関係 身体表現 アブライド・ドラマ アクティブ・ラーニング

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

医の倫理学
医系の国語表現(2)

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム(Moodle)へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4649>

■ ■ 授業言語

2022 年度 後期 医学部 医学科			日英区分 :日本語
医系の人間学 3 C			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
MB3003	MB-3-HS303-J		
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
服部 健司 [Hattori Kenji], 森 禎徳 [Mori Yoshinori]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
	3年次 ～ 3年次	1	

■ ■ 授業の目的

この授業では、社会の現実の中で生きる他者の生へと関心を向け、心情を想像する力、人とのコミュニケーションのはかり方、自己表現力、他者のニーズに対して柔軟に対応する仕方を学び、医師になろうとする者に必要な、医学的な知と技術以外の、基本的な素養を身につけることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

人間理解を深める。自分とは違ういろいろな人がいて、価値観も生き方もさまざまであること、そこにはそれぞれいろいろな事情や背景があること、その経験知をふやす。(B4, B5, C3)
さまざまな状況下での人との関わり方の基本を身につける。(C2, C4,D2)
相手のことを知ろうと関心を寄せて、プライバシーに配慮しながら、相手の心のありようやニーズを推測することができる。相手との間合いのとり方をさぐることができるようになるための基礎を学ぶ。(A5, C5, C6)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解
- B：論理的・創造的思考力
- C：コミュニケーション能力○
- D：社会的倫理観・国際性
- E：自己省察力 ○
- F：知識の獲得と知識を応用する力○
- G：チーム医療の中で協働する力○
- H：基本的な総合診療能力
- I：地域医療の向上に貢献する能力
- J：医学研究を遂行する能力
- K：自己研鑽

■ ■ 授業概要

タイプA～Cの授業が組み合わされている。
タイプA: 講義を通して、人間知や社会についての知のインプットを図る。
タイプB: ドキュメンタリーを視聴した後、意見交換を通して人間と社会について学ぶ。
タイプC: 学外から専門家と複数のアシスタントを招聘し、インプットと同時にアウトプット（身体表現・活動）に重心をおいた教育を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

回ごとに異なる。講義形式のものから、身体表現パフォーマンス型の単元まで用意されている。

■ ■ 授業スケジュール

各日とも13.00-16.20 である。諸事情により予定が変更されることがある。
詳細はGULMSに掲載されるのでリアクションペーパー提出時などに参照してほしい。

12月8日
クリニカル・シアター 6 服部・小板橋・藍澤・内田・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田
12月15日
患者中心志向 小松 康宏
12月22日
クリニカル・エチュード 6 服部・岸・藍澤・内田・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田
1月12日
クリニカル・シアター 7 徳永・服部・藍澤・内田・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田
1月19日
ドキュメンタリーから学ぶ
1月26日
ドキュメンタリーから学ぶ
2月2日
ドキュメンタリーから学ぶ
2月9日
クリニカル・エチュード 7 徳永・服部・藍澤・小井戸・熊野・蓮見・服部・谷戸・吉田

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0 時間

授業中に紹介された図書のほかに関連する参考文献を自分でも検索し、その一部でも読んで学習をより深めること。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

授業各回のリアクションペーパーや課題レポート等(75%)と、クリニカル・エチュードのパフォーマンス・取組み(25%)に基づいて、「医系の人間学」企画・運営グループの教員と授業担当教員とで、間主観的な総合評価を行う。本科目では（一発型の）本試験も再試験も行われな。学習の姿勢や資質・適性等に（点数化されないような）問題があるとの所見が寄せられた場合には、「医系の人間学」企画・運営グループの中で慎重な協議が行われ、その結果が評価に反映される。

学則変更の趣旨 - 64

授業の2/3未満しか出席しなかった場合（リアクションペーパーが提出されなかったときには欠席とみなされる）、期限までに期末レポートを提出しなかった場合、提出物に盗用・剽窃が認められた場合は、成績評価作業の対象からはずれ、単位は認められない。不正行為は決して行わないこと。

「リアクションペーパーの書き方」をGULMSにアップロードしてあるので、各自ダウンロードして活用してほしい。教員の目のつけ所は主には以下の5点である。

- 1) 授業内容の要点・教員が伝えたいと考えたことの核心を的確にとらえ(理解し)、まとめている
- 2) 授業から得た疑問や問題意識が明確に示されている
- 3) 自身の考えが、妥当で説得力のある論拠とともに明確に示されている
- 4) （意見交換する時間があれば）そこから学んだことを（自分や相手の見方を相対化しながら）振り返っている
- 5) 疑問や問題意識に即して自分自身で問い・知・考えを深めようと学習・探究している(ただしネット等からのコピペやパッチワークではない)

リアクションペーパーの採点ポイントのうち主だったものを具体的に例示すると、以下の通りである。
[高得点要素]: コニークな視点で書かれている 観察力・洞察力に富んでいる 横断的・総合的・建設的・探究的に書かれている 問題を的確に浮き彫りにしている 批判的（自説の源・限界に自覚的）である うけ売りでない 他の異なる立場を顧慮している 反論を予想しこれに回答するかたちで書かれている
[低得点要素]: 視角がかなり狭い 抽象的・図式的にしか考えていない 綺麗事で片付けている 叙述の展開に論理性が不足し飛躍・迷走している 大きな誤解をしている 独断的な言いつ放しである 授業やトピックから逸れたことが書かれている 記述が短いか内容が薄く乏しい 検索エンジン等で目につき入手が容易な資料に飛びつき（よく吟味することなく）うのみになっている 先に答えありきの（取って付けたような、見せかけの）問いを立てている 自分の頭で考えていない 引用や要約紹介の比重が大きい 尻切れで終わっている 日本語表現・文法が乱れている

クリニカル・エチュードの評価ポイントはGULMSにアップする。

■ ■ 受講条件（履修資格）

医学科3年生

■ ■ メッセージ

このページの下には medizethik@gmail.com が連絡先として掲載されています。科目責任者・服部への連絡はこちらのメールアドレスをお使いください。他の学内の授業担当教員へは各人がメールアドレスをもってしますので、そちらに送信して下さい。

リアクションペーパーや課題と期末レポートの提出先はGULMS内に設置された「医系の人間学」の指定の提出箱である。提出には締切日時が設けられており、定刻を過ぎると機械的に受理されなくなるので注意すること。いくら提出したつもりであってもGULMSに提出物の保存が確認できない場合には未提出扱いとなるので、操作・手続きミスなく受理が完了しているかどうかを自身で確認すること。なお、過去の別の回のリアクションペーパーを誤って提出したことに気づいた場合には締切前であれば再提出して差し替えること。差し替えがなかったときには、誤って提出した回は未提出扱いとする。このような事故を避けるために、ファイル名に日付（の数字）を入れるなど、管理に留意が必要である。

盗用・剽窃を行った学生は「群馬大学学生の懲戒等に関する規則」に則り処分や教育的措置が下される。

■ ■ キーワード

人間 家族 社会 性・生殖 死 想像力 感性 対人関係 身体表現 アブライド・ドラマ アクティブ・ラーニング

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

医の倫理学
医系の国語表現(2)

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4650>

■ ■ 授業言語

2022 年度 前期 医学部 医学科			日英区分 : 日本語
チームワークトレーニング			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
MB4006	MB-3-CS415-J		
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
篠崎 博光 [Shinozaki Hiromitsu], 齋藤 貴之 [Saitoh Takayuki], 李 範爽 [I Ponsoku], 金泉 志保美 [Kanaizumi Shiomi], 牧野 孝俊 [Makino Takatoshi], 山路 雄彦 [Yamaji Takehiko], 岸 美紀子 [Kishi Mikiko], 小松 康宏 [Yasuhiro Komatsu], 田中 和美			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
	4年次 ~ 4年次	2	

■ ■ 授業の目的

I P E（Interprofessional Education）でもっとも大切とされる「共に学ぶ」という理念のもと、学内演習や臨地実習の課題にチームで取り組み、専門職間の連携・協働のあり方について学ぶことを目的とする。

グループワークを通して、チーム医療の基礎的知識を理解して実習計画を立案し、それに基づいて臨地実習を展開し、その学習成果の発表を通して様々な分野におけるチームワークのあり方と、専攻職種の実践役割を理解することである。本科目では専攻の異なる学生が互いの交流をとおして、専攻の枠を超えた人間的連帯感を培い、チーム医療の心と実際を学ぶことができる。

■ ■ 授業の到達目標

1. 礼節（挨拶、服装、態度、言葉遣い、時間厳守等）をわかまえる（C 1）
2. 医療スタッフ、患者さんに接する際の心遣いを知る（A 5）
3. 体験を重ねることにより状況に応じた自主性を発揮できる（A 1）
4. 患者さんや利用者の方の生活や心理に対する理解を深める（D 2）
5. 患者さんや利用者の方の安全を最優先した行動を心がける（E 1 3）
6. 模擬症例や臨地実習を通じて、地域医療の現状を理解する（F 1）
7. チーム医療を担う自覚を持ち、班員や指導者、実習先でお世話になる方々と円滑な協働関係を築くことができる（D 1）
8. 医学生としての自覚を身につける（H 2）

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解
B：論理的・創造的思考力
C：コミュニケーション能力○
D：社会的倫理観・国際性
E：自己省察力○
F：知識の獲得と知識を応用する力
G：チーム医療の中で協働する力◎
H：基本的な総合診療能力○
I：地域医療の向上に貢献する能力◎
J：医学研究を遂行する能力
K：自己研鑽

■ ■ 授業概要

前半ではグループの仲間を知ることから始まり、模擬症例の検討、実習課題の設定、実習施設や実習課題に関する資料収集、後半での実習計画の立案などグループワークを中心とした学内学習を行う。実習後半で病院、保健福祉事務所、訪問看護ステーション、リハビリテーション施設、精神保健施設などでの1日間の施設実習を行い、その実習成果の発表会、報告集の作成に向けてのプレゼンテーションの準備や原稿作りなどをチームメンバーと協力して行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

保健学科看護学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻、高崎健康福祉大学薬学部の学生と共に8～10名の班のメンバーとなる。

授業全期を通して1班に1～3人のグループ担当教員が担当教員として配置され、グループ学習、臨地実習、プレゼンテーションや報告書作成の指導を行う。

■ ■ 授業スケジュール

保健学科シラバス「チームワークトレーニング」を参照してください。

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

事前学習では、シラバスから講義の項目を調べる。事後学習においては、授業中の配布資料や講義内容を復習し、自らの知識として定着するよう努める。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び 関連するディプロマポリシー

グループワーク・実習への取り組みの姿勢、レポート等を総合して評価する。

■ ■ 受講条件（履修資格）

保健学科3年生（4専攻共通科目）
医学科4年生

■ ■ メッセージ

各専攻学生が将来、専門職としてそれぞれの能力を発揮しながら、対等の立場で全人的医療を展開していくための基礎となる学習である。メンバーシップ、リーダーシップを発揮して主体的な姿勢で学習に取り組んでほしい。また、グループ担当教員の助言を有効に活用し、個性的なグループワーク、実習、発表を展開してほしい

■ ■ キーワード

多職種連携 アクティブラーニング 実務経験

この授業の基礎となる科目

医系の人間学 1 A
チーム医療実習

次に履修が望まれる科目

臨床実習（必修）、地域保健医療論

関連授業科目

公衆衛生学

教科書

参考書

参考書1	ISBN					
	書名	チームワークの心理学				
	著者名	国分康孝	出版社	講談社	出版年	
	備考	講談社現代新書				
参考書2	ISBN					
	書名	インタープロフェッショナル・ヘルスケア-チーム医療の実際と教育プログラム-				
	著者名	水本清久、岡本牧人、石井邦雄、土本寛二	出版社	医歯薬出版株式会社	出版年	
	備考					

教科書・参考書に関する補足情報

要項を配布し、それに基づいて実習する。

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4678>

授業言語

2022 年度 前期 医学部 医学科			日英区分 : 日本語
地域保健医療論			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
MB6003	MB6PM06300		
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
浜崎 景 [Hamazaki, Kei], 内田 満夫 [Mitsuo Uchida], 山崎 千穂（助教） [Yamazaki Chiho]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
	6年次 ～ 6年次	1	

■ ■ 授業の目的

4 年次後半からの地域保健実習、およびその発表会と集中講義を行い、さまざまな保健活動、医療制度についての知識と理解を深め、広く社会を意識しつつ、そのなかで、将来、医師となる自分を位置づけることができることを本授業の目標とする。

■ ■ 授業の到達目標

1. 公衆衛生の意義を深く認識・理解するために、4 年次後半から保健関連施設での地域保健実習を行う。（C3,F1,3,4、H1）
2. 6 年次では公衆衛生に関する集中講義に参加し、同時に地域保健実習の発表会を行うことでより理解を深める。（C3,F1,H1）
3. 公衆衛生的な考え方を身につけ、人々の健康を保つための保健・医療の社会性について考えることができる。（F1,3,4）

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

医学部のディプロマポリシーの、2, 3と関連している。

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）
A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 ◎
E：自己省察力 △
F：知識の獲得と知識を応用する力 ○
G：チーム医療の中で協働する力 －
H：基本的な総合診療能力 －
I：地域医療の向上に貢献する能力 ◎
J：医学研究を遂行する能力 △
K：自己研鑽 ○

■ ■ 授業概要

公衆衛生学の定義、疾病予防対策や地域保健などの公衆衛生の実際の応用例について講義し、また、4 年次後半から地域保健実習を実施し、6 年次に集中講義を行う。この集中講義では、各自の地域保健実習の内容について発表会を行ない、地域保健関連施設の意義や役割について理解を深める。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

4 年次後半からの地域保健実習と 6 年次集中講義および地域保健実習発表会がある。

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	4 月 2 5 日（月）（9:00開始）オリエンテーション、講義（藤田晴康：臨床疫学 1・2）および 地域保健実習発表会 なお、講義時間と講師名は変更する可能性があるため、最新情報を Moodle で確認すること。
第2回	4 月 2 6 日（火）講義（小林康毅：医療経済と国民医療費、友利久哉：医療制度・高齢者保健）および 地域保健実習発表会
第3回	4 月 2 7 日（水）講義（小野芳啓：プライマリケアと医師会活動、小山洋：医師法・医療法）および 地域保健実習発表会
第4回	4 月 2 8 日（木）講義（齊藤猛：精神保健）および地域保健実習発表会

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1 単位につき 45 時間の学修が必要です。

学則で定められている 1 単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業 15～30 時間、授業時間外 30～15 時間

実験・実習・実技 授業 30～45 時間、授業時間外 15～0 時間

4 年次後半からの地域保健実習の内容をパワーポイントにまとめて発表を行うので、実習先の施設の概要や役割、意義、課題などを分かり易くとりまとめ準備して、発表を行うこと。なお、作成方法の詳細は事前に連絡をおこなう。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

地域保健実習先における評価、レポート、発表会での内容、および、最終試験結果で評価する。

■ ■ 受講条件（履修資格）

4 年次後半から 6 年次

■ ■ メッセージ

講義の時間割は、教員や非常勤講師の都合により変更となる場合があります。学生は各自よく確認しておいてください。

■ ■ キーワード

学則変更の趣旨 - 68

公衆衛生、地域保健

この授業の基礎となる科目

次に履修が望まれる科目

関連授業科目

教科書

教科書1	ISBN	9784524231560				
	書名	シンプル衛生公衆衛生学2022				
	著者名	鈴木庄亮	出版社	南江堂	出版年	2022
	備考					

参考書

参考書1	ISBN					
	書名	図説国民衛生の動向				
	著者名	厚生労働統計協会／編集,厚生労働統計協会,厚生労働統計協会,	出版社	厚生労働統計協会	出版年	2022
	備考					
参考書2	ISBN					
	書名	国民衛生の動向				
	著者名	厚生労働統計協会／編集,厚生労働統計協会,厚生労働統計協会,	出版社	厚生労働統計協会	出版年	2022
	備考					

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4686>

授業言語



医 第30081-7号
令和4年8月16日

厚生労働省医政局長 様

群馬県健康福祉部長 歌代 昌文
(医 務 課)



地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和4年8月10日付け4文科高第627号、医政発0810第4号に基づき、下記のとおり、令和5年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

地域の医師確保等に関する計画及び都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

記

増員数

群馬大学医学部における地域枠：18名

担当：医師確保対策係 園田・高尾
TEL：027-226-2540（直通）
E-mail: imuka@pref.gunma.lg.jp

教 育 課 程 等 の 概 要														
（医学部医学科等）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門 基礎 科目	物理学演習	1後	1			○			1					
	化学演習	1後	1				○		1					
	自然科学演習・実験	1前	1					○	10	1	1	1		
	物理学	1前				○			1					
	化学	1前		2		○			1					
	生物学	1前				○			1	1		2		
	医系の数理科学	2前	1			○			1			1		
	医系の国語表現(1)	1前	2			○			4		1	1		
	医系の国語表現(2)	1後	2			○			4		1	1		
	小計（9科目）	—	8	2	0	—			12	2	2	4	0	
人間 科学	医の倫理学	1	6			○			1		1			
	医系の人間学1A	1	3			○			3	1	1	2		
	医系の人間学1B	1	3			○			1		1	2		
	行動科学	2	1			○			1			1		
	医系の人間学2A	2	3			○			2	1	1	2		
	医系の人間学2B	2	3			○			2	1	1	2		
	医系の人間学3A	3	2			○			1	1	1	2		
	医系の人間学3B	3	1			○			1	1	1	2		
	医系の人間学3C	3	1			○			1	1	1	2		
	臨床行動科学	3	1			○			1		1	3		
	小計（10科目）	—	24	0	0	—			5	1	1	5	0	
生命 医学 Ⅰ	系統発生	1	2			○			2	1	1	3		
	医学統計学	2	1			○			1			1		
	医学情報処理演習	2	1				○		1			1		
	動物実験学	2	1			○			1		1	3		
	遺伝学	2	1			○			4	1	1	2		
	小計（5科目）	—	6	0	0	—			6	2	2	8	0	
生命 医学 Ⅱ	膜生理学	2	1			○			1	1		1		実習 実習 実習 実習 実習 実習
	生化学	2	2			○			2	1	1	2		
	分子病態学	2	2			○			2	1	1	2		
	組織学	2	2			○			2		1	2		
	肉眼解剖学	2	6			○			1	1	1	2		
	神経解剖学	2	1			○			1		1	3		
	生理学	2	3			○			2	1	2	3		
	神経科学	2	1			○			1	1	1	2		
	小計（8科目）	—	18	0	0	—			8	4	6	10	0	
生命 医学 Ⅲ	免疫学	3	1			○					1	1		
	細菌学	3	2			○			1	1	1	3		
	寄生虫学	3	1			○					1			
	衛生学	3	1			○			1		1	2		
	ウイルス学	3	1			○			1		1	1		
	医学研究実習	3	2					○	14	9	14	21		
	公衆衛生学	3	2			○			1		1	1		
	小計（7科目）	—	10	0	0	—			14	9	14	21	0	
生	薬理学	3	1			○			1	1	2	2		
	病理総論	3	2			○			2	1	1	3		

生命医学Ⅳ	法医学	3	1			○			1	1		2	
	検査学	3	1			○			1	1		1	
	発達と老化	3	1			○			2				
	主要症候と病態生理	3	2			○			4	1	2	2	
	小計（6科目）	—	8	0	0	—			6	3	4	8	0
臨床医学Ⅰ	循環器	3	1			○			2	1	1	2	
	感染症	3	1			○			2	1	2	2	
	耳鼻咽喉・口腔顎顔面	3	1			○			1		1	2	
	呼吸器	3	1			○			1		1	1	
	腎臓病学・泌尿器科学	3	1			○			3	1	2	2	
	麻酔・救急	3	1			○			2	2	1	1	
	臨床薬理学総論	3	1			○			1		1	1	
	放射線基礎医学	3	1			○			2	1	1	1	
	小計（8科目）	—	8	0	0	—			10	3	6	10	0
臨床医学Ⅱ	消化管	4	1			○			1		1	2	
	皮膚・形成外科	4	1			○			1		1	2	
	肝胆膵	4	1			○			1		1	2	
	産科婦人科学・周産期医学	4	1			○			1		1	2	
	血液学・リウマチ膠原病学	4	1			○			2		1	2	
	内分泌代謝・乳腺	4	1			○			2		1	2	
	臨床試験・臨床研究	4	1			○			1		1	2	
	放射線腫瘍学・腫瘍内科学	4	1			○			2		1	2	
	小計（8科目）	—	8	0	0	—			8	0	6	12	0
臨床医学Ⅲ	脳・神経系	4	1			○			2		1	2	
	整形外科・リハビリテーション	4	1			○			1		1	2	
	小児科・小児外科	4	1			○			2		1	2	
	病理各論	4	1			○			2		1	2	
	画像診断・核医学・IVR	4	1			○			2		1	2	
	精神科・眼科	4	1			○			2		1	2	
	小計（6科目）	—	6	0	0	—			6	0	3	6	0
臨床医学講義・演習	チームワークトレーニング	4		2			○		2			2	
	チームスキル演習	4					○		1			2	
	臨床推論TBL	4	1			○			1	1	2	2	
	臨床実習入門	4	6			○			1		2	2	
	臨床実習達成演習	5	6				○		1				
	実践臨床講義	6	8			○			27	13	1	10	
	地域保健医療論	6	1			○			1	1			
	小計（7科目）	—	22	2	0	—			27	13	4	15	0
臨床医学実習	チーム医療実習	2	2				○	2		1	2		
	臨床基本手技実習	4	1				○	1	1	2	4		
	臨床実習1	5	23				○	29	20	9	28		
	臨床実習2	6	16				○	29	20	9	28		
	小計（4科目）	—	42	0	0	—			29	20	9	28	0
合計（78科目）		—	160	4	0	—			44	32	25	58	0
学位又は称号		学士（医学）			学位又は学科の分野			医学関係					
卒業要件及び履修方法								授業期間等					
教養教育科目は2年次までに所定の単位を修得しなければならない。 専門教育科目は医学生として求められる資質・適性・能力に問題がないと認められ、全ての必修科目、共用試験CBT及びPre-CC OSCE、Post-CC OSCEに合格した場合に卒業とする。								1学年の学期区分			2期		
								1学期の授業期間			15週		
								1時限の授業時間			60分または90分		

兼30
兼30

（注）

- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を

受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。

4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。

(1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。

(2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

(3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。